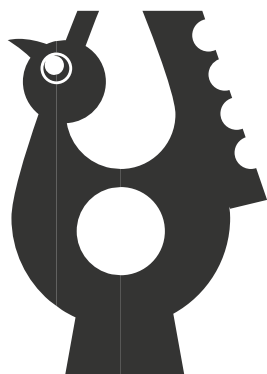


会 報

2023（令和5）年度



社会福祉法人 天童会

ごあいさつ

2023年5月27日に厚生労働大臣発出の「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に係る5類感染症への移行について」という通知の中で、「感染症の予防及び感染症の患者に関する法律（1998年法律114号）上の新型インフルエンザ等感染症に該当しないものとし、2023年5月8日から「5類感染症」に位置付ける」となりました。

5類移行によって新たな状況になりましたので、本園でも、緩やかに、穏やかに、いつものような状況への回帰を図れるようになりました。2023年度は、新型コロナウイルス感染症の収束によって、ほっと一息ついた一年だったように思います。

バスでの外出に出かける利用者の声が、玄関ホールに響いています。文化祭では、笑顔・笑顔・笑顔の写真とともに、コロナの間であっても、病棟ごとに活動して作成したスヌーズレンの小作品などを展示しました。どんな状況であっても、底力を発揮できるパイオニア精神は、初代から引き継がれたものでしょうか。

そこで、この際、秋津療育園が築いてきた財産をご紹介します。それらを、「秋津ブランド」と称しています。

秋津ブランド①

我が家に家族とともにいるような環境で、穏やかで安心感のある暮らしがあること

*秋津療育園は家庭の事情でお世話できない児を主として、家庭の不幸を未然に防ぎ、家庭の延長としての施設

*約30年前、ここ秋津療育園は利用者にとって家と同じ、自分達職員はご家族に代わって生活をお伝いする存在と、先輩職員からよく指導を受けました。

秋津ブランド②

利用者の輝く笑顔と幸せな日々の追求～職員の気づきが溢れるかけがえのない日常生活があること

秋津ブランド③

豊かで多様性のある日中活動。日中活動は、音・香り・光のハーモニーが交錯し、利用者を魅了する大スペクタクルが展開。

秋津ブランド④

ライフステージに応じた学び～生涯学習の視点の導入へ

*たんぽぽクラブ（発達支援：学童期）、*樺大学（カレッジ活動：青年期）

上記以外にも、歴史が紡いできた「秋津ブランド」として誇りたいことはたくさんあります。何よりも、活動の価値を、職員自身が見つけだし、その質を高めることが大切です。そのようなチームづくりを目指しています。

2024年5月 理事長 飯野順子

はじめに

2024年1月1日16時、震度7、マグニチュード7.6の能登半島地震が発生しました。石川県を中心に新潟、富山、福井県が被災しましたが、新年の喜びは一転し、被災地の状況に心を痛める年のはじまりでした。最も被害の大きかった石川県では現在までに死者数は245人、行方不明者3人、家屋の全半壊は併せて2万4千棟に及んでいます。水道、ガス・電気や道路などの社会インフラや農地などの被害も甚大で、未だに十分復旧していません。被災された皆様には心からお悔やみお見舞いを申し上げ、一日も早く元の生活を取り戻されますよう祈念致します。

2022年はロシアがウクライナに侵攻し、戦争は長期化して現在に至り解決の目途は立っていません。また、2023年10月からはイスラエルとパレスチナ・ガザの紛争が始まりました。2024年5月上旬の国連の発表では、パレスチナ側の死者は3万5千人以上、負傷者は7万人を超えると推定されています。国際NGOセーブ・ザ・チルドレンは1月に「ガザ地区では1万人以上の子どもが死亡し、約1千人が片足または両足を失った」と声明を渡し、即時停戦を訴えました、

近年はインターネット、AI技術の急成長によって通信手段、情報処理・分析技術は目覚ましく発展し、人と人とのコミュニケーションは長足の進歩を遂げたように見えます。しかし、人と人との思いやりのある相互理解はまだ先のように、誠に残念です。

また、「産業革命以後現在までに地球の平均気温は1.1℃上昇したが、温室効果ガスの劇的な排出削減がなければ今世紀末までには2.5～2.9℃上昇する」という研究結果を踏まえたグテーレス国連事務総長の「地球は温暖化を既に越えて沸騰化へ向かっている」という最近の発言があります。地球環境の激変は人類を含むすべての生物の生存にとって深刻な問題となっています。

一方、AYA世代（15-30歳までの思春期後期と若年成人世代）までの若者たちは、地球温暖化が始まってから生まれた世代のため、地球が温暖化あるいは沸騰化に向かっていると言っても、かつての気候を知らないのが今が普通と考え、その危機を理解できないのだとも言われています。これも問題です。2030年には後戻りできない転換点 tipping point に達すると言われていた気候変動の問題に、科学的な視点に立って真剣に取り組み、危機の解消を図ることが私たちの喫緊の課題であると痛感いたします。

しかし、このような厳しい状況の中でも、重症心身障害児（者）の明るい未来を築くことは可能です。そのためには、社会全体が協力して争いのないインクルーシブな共生を目指すとともに、重症心身障害児（者）が自己実現し、生きる喜びを感じられる環境を整えることが不可欠です。教育や日中活動の拡大、コミュニティへの積極的なアクセス、そして偏見や差別をなくすための啓発活動、重症心身障害児（者）の重症化や高齢化に向けての医療・居住環境の整備など、さまざまな取り組みが必要です。

私どもの施設でも、その一端を担うことを誇りに感じながら、皆様と共に、安定した社会を維持し、より良い未来を築くために努力し、豊かな療育の実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。今後ともご支援、ご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2024年5月園長 大石 勉

2023（令和5）年度「会報」目次

ごあいさつ [社会福祉法人天童会 顧問（旧理事長）]

はじめに [社会福祉法人天童会 理事長（旧園長）]

I. 天童会の概要	4
理念、運営方針、事業内容、沿革・概要、歴代園長、歴代理事長 役員状況、入所者の状況	
II. 医 務 部	11
医務部方針、耳鼻科、薬剤科、放射線科、歯科、検査科、 リハビリテーション室	
III. 療 育 部	
療育部	18
第1病棟報告	21
第2病棟報告	26
第3病棟報告	29
第4病棟報告	31
IV. 栄養管理室	32
V. 療育サービス課	39
施設内訪問学級	42
VI. 秋津療育園通園センター	45
秋津療育園相談支援センター	51
訪問看護ステーションあきつ	51
VII. 児童発達支援センターマイム	53
エメット保育園	56
VIII. 会議、各委員会、研修報告	57
IX. 2023（令和5）年度決算報告	63

凡例、報告文中以下の略語と記載を使用した。

- ・重症心身障害児（者）— 重症児（者）
- ・新型コロナウイルス感染症— 新型コロナ

I 天童会の概要

◇ 理 念 ◇

私たちは、障害者の生命と生活を守り心身の成長・発達を援助し、その維持に努め社会のつながりを保ち豊かな人生を実現するために努力します

◇ 運 営 方 針 ◇

私たちは、一房のぶどうです。「園生の幸せ」の実を豊かに結ぶために、協働・共有・共感しつつ「存在」を支える支援を目指します。キーワードは「つながる」・「つなげる」です。



- ① 一人ひとりの園生の生命と健康を守り、個性を尊重し、自己実現を図ります
- ② 感染症対策をより一層推進し、安心安全な療育環境を整え
日常生活や日中活動の質的充実を図ります
- ③ 療育の専門職として知識・技能を高め、職員の協働により、
きめ細やかな療育活動を進めます
- ④ ご家族とのつながりを大切にし、連携を深め、安心と信頼のある環境づくりを進めます
- ⑤ 地域社会への包括的支援を担う法人として持てる機能を発揮し、力を尽くします
- ⑥ 諸外国との国際交流を進め、福祉・療育に関わる人材の育成に貢献します

1 事業内容

事業名、施設名	事業内容
事業名 医療型障害児入所施設 療養介護事業 施設名 秋津療育園 定員 175人	在宅での生活が困難な重症児（者）が当園との契約により入園している。
事業名 短期入所事業	介護給付費を利用し、在宅の重症児（者）を介護する保護者等が一時的に家庭における介護を行うことが困難となった場合受け入れている。
事業名 医療入院	在宅の重症児（者）で、保護者等の病気やその他の事情により家庭介護が困難な場合、一時入院として受け入れている。
事業名 生活介護事業 施設名 秋津療育園通園センター 定員 20人	18歳以上の在宅重症者の方々に対し、生活介護全般および日中活動を行っている。
事業名 訪問看護事業 施設名 訪問看護ステーションあきつ *2024年3月をもって休止	通院が困難な療養者（障害者・在宅重症心身障害児者を含む）の住まい（居宅）に看護師が訪問し、主治医の指示により看護・介護・リハビリを行う。
事業名 相談支援事業 施設名 秋津療育園相談支援センター	地域ニーズに応じ近隣障害者（入所・通所利用者を含む）、児童のサービス等利用計画に係る相談と計画書の作成を行っている。

障害児通所支援事業 施設名 児童発達支援センターマイム ① 児童発達支援 重症心身障害児「ひかり」 1日支援 定員8人 ② 児童発達支援 重症心身障害児以外「にじ」 1日支援 定員8人 ③ 児童発達支援 重症心身障害児以外「そら」 短時間支援 定員12人 ④ 保育所等訪問支援 居宅訪問型児童発達支援 「かぜ」	地域の重症児、発達障害児等を対象とした通所、訪問型の支援を行っている。
保育事業 施設名 エメット保育園 定員 19人	0歳から2歳までの地域の児童を預り、保育を行っている。

2 沿革・概要

- 1) 開設認可 1958年11月20日（昭和33年）
- 2) 事業開始 1959年7月22日（昭和34年）
- 3) 創設経緯

初代理事長草野熊吉が、キリスト教の精神に拠って、当時、児童福祉法、医療法、教育基本法などのあらゆる福祉の谷間におかれた重症児（重度重複障害児）のために、福祉の樂園を願い同志の協力を得て施設を開設した。

年月	概要
1962年11月	財団法人 秋津療育園設立認可。病床21床（昭和37年）
1964年6月	旧第2病棟。職員宿舎など増築。49床に増床となる。
1964年12月	厚生省事務次官通達に基づく重症心身障害児施設として承認
1965年3月	旧第1病棟・炊事棟・管理棟など増築。100床に増床となる。
1967年8月	児童福祉法改定、児童福祉施設となる
1970年1月	成人棟（旧第3病棟）増築、生活訓練棟（旧第2病棟）改築。120床に増床となる。
1974年7月	託児所開設、家族宿舎、医師宿舎など完成
1978年3月	園内歯科診療開始
1980年4月	養護学校訪問学級開校、園内耳鼻科診療開始
1983年3月	生活指導訓練棟（男子職員宿舎）・母子室（親子宿泊設備）完成
1989年1月	施設の設置主体 財団法人から社会福祉法人『天童会』へ事業を継承（平成元年）
1991年3月	施設全面改築第1期工事完成（第2・3病棟）、旧建物取り壊し
1992年7月	施設全面改築完成。135床に増床となる。
1992年8月	通園事業開始
1993年1月	緊急一時事業開始
1994年3月	40床増床など増改築完成。同年11月に40床全員の措置終了。178床に増床となる。
1999年3月	医療法改正に伴い、3病棟体制を4病棟体制に変更
1999年4月	生活指導訓練棟（園生療育および地域交流、訪問学級併設）完成
2000年4月	施設内訪問学級高等部開校
2001年4月	障害児(者)ITバリアフリー事業、苦情解決事業開始
2004年3月	全館屋上防水・外壁補修塗装工事施工
2006年10月	契約制度開始
2008年7月	創立50周年を迎える。9月3日記念式典実施（平成20年）
2010年3月	託児所「こひつじ園」移転新築完成
2012年4月	法改正に伴い、医療型障害児入所施設（原則18歳未満）と療養介護事業の一体型運営に移行、通園は生活介護事業に衣替え
2013年12月	相談支援センター（特定相談支援事業）開設

2014年4月	障害者歯科外来開設
2017年4月	こひつじ園からエメット保育園に名称変更し東村山市の認可保育所となる
2018年4月	創立60周年記念事業として「地域支援事業準備室」開設（平成30年）
2021年2月	地域支援事業「SLPセンターアーク」事業開始（令和3年）
2021年7月	訪問看護事業開始

4) 歴代園長

氏名	期間
1 岡野 喜久子	1958年（昭和33年）11月～1961年7月
2 宇野 重雄	1961年11月～1962年8月
3 芹沢 美之	1962年8月～1982年9月
4 大島 一良	1982年9月～1993年1月
5 田中 明	1993年1月（平成5年）～1999年9月
6 沼田 正廣（園長代行）	1999年9月～2000年3月
7 村田 篤司	2000年4月～2012年3月
8 白井 徳満	2012年4月～2020年3月
9 大石 勉	2020年（令和2年）3月～現在

2024年3月31日現在

5) 歴代理事長

氏名	期間
1 草野 熊吉	1959年（昭和34年）7月～1992年12月
2 草野 時治	1992年12月～2013年4月
3 村田 篤司	2013年5月～2019年6月
4 飯野 順子	2019年（令和元年）7月～現在

2024年3月31日現在

6) 役員状況

評議員		理事・監事	
評議員	坂巻 熙	理事長	飯野 順子
評議員	辰島 清江	常務理事	大石 勉
評議員	太田 和男	理事	小野寺 隆
評議員	野田 教	理事	下山 直人
評議員	吉岡 恵生	理事	児玉 和夫
評議員	杉野 学	理事	倉田 清子
評議員	緒方 淳	理事	山本 一郎
評議員	分須 隆幸	理事	田添 敦孝
評議員	工藤 満生	監事	田中 弘樹
評議員	西山 史洋	監事	安沢 勝秀

2024年3月31日現在

— 以下余白 —

入所者の状況

2024年3月31日現在

1 病棟別入所者 超重症児：19人 準超重症児：44人

(単位：人)

棟別\人数	利用者			
	定床	現在数	男	女
第1病棟	49+3	48	28	20
第2病棟	56	56	29	27
第3病棟	40	40	20	20
第4病棟	30	29	17	12
計	175+3	173	94	79

* 第1病棟3床は短期入所分

2 棟別・年齢別在籍数

棟別/年齢	0～9	10～17	18～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	最年少	最年長	平均年齢
第1病棟	1	6	1	8	5	10	11	3	3	3歳	72歳	40.2歳
第2病棟	0	0	0	1	4	12	13	20	6	21歳	75歳	55.2歳
第3病棟	0	0	0	0	5	6	5	14	10	34歳	79歳	59.0歳
第4病棟	0	0	1	0	1	7	7	10	3	18歳	75歳	55.7歳
小計	1	6	2	9	15	35	36	47	22			
計	7人		166人 (96.0%)							3歳	79歳	52.5歳

3 大島分類による病棟別入所状況

IQ

21	22	23	24	25	
20	13	14	15	16	70
19	12	7	8	9	50
18	11	6	3	4	35
17	10	5	2	1	20
16	9	4	1	0	0
15	8	3	0	0	0
14	7	2	0	0	0
13	6	1	0	0	0
12	5	0	0	0	0
11	4	0	0	0	0
10	3	0	0	0	0
9	2	0	0	0	0
8	1	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
はしれる	あるける	歩行障害	すわれる	ねたきり	

4 病棟別日常生活動作（ADL）の状況

（単位：人）

項 目		計	第1病棟	第2病棟	第3病棟	第4病棟
移 動	移動できない	91	39	28	16	8
	寝返り他の移動	43	7	15	15	6
	手足移動	18	2	5	9	2
	ささえ歩き	11	2	7	0	2
	独歩	10	0	0	0	10
言 語	話せない	114	44	39	7	24
	言語理解可能	33	4	9	19	1
	単語を話す	12	1	5	5	1
	二語文を話す	10	0	2	6	2
	会話ができる	4	1	0	3	0
摂 食	全面介助	116	47	34	19	16
	(内、経管栄養のみ)	23	13	5	2	3
	(内、経管・経口併用)	46	29	5	3	9
	手で食べる	10	0	5	4	1
	一部介助を要す	32	3	12	8	9
	スプーンで食べる	11	0	4	5	2
	箸で食べる	4	0	0	4	0
排 泄	オムツ使用	146	48	52	22	24
	時間で誘導する	6	1	1	2	2
	事前に知らせる	12	1	2	8	1
	一部介助を要す	9	0	0	8	1
	一人でできる	0	0	0	0	0
更 衣	全介助	116	46	38	20	12
	着脱に協力する	38	4	13	10	11
	脱衣可能・着衣不可	9	0	3	3	3
	一部介助を要す	8	0	1	5	2
	一人でできる	2	0	0	2	0

5 在園年数状況

（単位：人）

	0～4年	5～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	平均在園年数
第1病棟	9	7	10	6	7	4	5	0	21.8
第2病棟	6	3	4	12	6	7	17	1	34.7
第3病棟	3	1	6	8	5	1	10	6	36.9
第4病棟	5	0	1	9	2	2	8	2	34.5
計	23	11	21	35	20	14	40	9	32.1

— 以下余白 —

6 主要病因別分類

時期	原因	障害内容	計	小計	合計
出生前 の原因	感染・中毒	先天性風疹	0	1	52
		先天性梅毒	0		
		先天性トキソプラズマ	1		
		その他の感染・中毒	0		
	代謝異常	糖質代謝障害	0	2	
		アミノ酸代謝障害	1		
		脂質代謝障害	0		
		プリン代謝障害	0		
		その他の代謝障害	1		
	母胎の疾患	妊娠中毒症	1	1	
		その他の母胎の疾患によるもの	0		
	不明の出生前の原因	原発性小頭症又は狭頭症	2	6	
		水頭症	3		
		神経皮膚症候群	0		
		変性疾患	1		
	染色体異常	ダウン症候群	3	10	
		その他の染色体異常	7		
	特殊型その他	先天性下垂体機能低下症	1	32	
		オピッツ症候群	1		
奇形症候群		4			
進行性神経性筋委縮症		1			
その他不明のもの		25			
出生時・ 新生児期 の原因	分娩異常	機械的損傷による脳障害	1	51	
		低酸素症又は仮死	48		
		その他の分娩異常によるもの	2		
	新生児期の異常	低出生体重児（AFD又はLFD）	4	23	
		低出生体重児（SFD）	8		
		高ビリルビン血症	1		
		感染症に起因する脳損傷	5		
		新生児痙攣	1		
		その他の新生児期の異常	4		
	その他	血管障害	0	4	
その他の不明のもの		4			
周生期 以降の 原因	外因性障害	髄膜炎・脳炎	15	26	
		脳外傷	4		
		中毒性脳症	0		
		予防接種による脳炎・脳症	2		
		その他外因によるもの	5		
	症候性障害	血管障害	1	11	
		てんかん	1		
		脳蓋内出血	1		
		脳症	8		
		精神障害による発達遅滞	0		
		その他の症候性障害	0		
	その他	環境因子による発達遅滞	0	2	
		レット症候群	2		
その他不明のもの		0			
不明	不明	不明	3	3	3
合計				172	

Ⅱ 医務部

医 務 部

1 医務部の方針

医務部は医局（内科・小児科・精神科・耳鼻咽喉科）、薬剤科、放射線科、歯科、検査科、リハビリテーション室で構成されている。合併症の治療と予防に努めながら、健康・栄養管理を適切に行い、ADL、QOL を向上させ、充実した生活を提供することを方針としている。近年は、加齢に伴う身体機能低下への対応、腫瘍性疾患の管理などを必要とする医療が増えている。近隣専門医療機関と連携し対応している。

2 耳鼻咽喉科

毎月第2・第4水曜日に診療を行っている。今年度も新型コロナウイルス感染予防対策のため、他病棟の園生、職員と接触しない体制をとり、標準予防策の徹底に努め診療を継続した。

2023 年度耳鼻科月別・病棟別受診人数、診療件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診人数	第1病棟	13	0	13	8	14	12	7	13	11	12	12	12	127
	第2病棟	14	12	8	9	14	0	7	15	6	6	15	16	122
	第3病棟	10	12	12	6	5	7	5	11	5	5	10	10	98
	第4病棟	10	9	10	12	1	12	5	9	10	11	9	9	107
	合計	47	33	43	35	34	31	24	48	32	34	46	47	454
実施内容・処置	検診	32	31	37	30	25	21	23	36	23	24	36	33	351
	耳処置	3	1	4	0	4	1	0	3	0	1	1	2	20
	耳垢除去	41	31	38	32	32	29	24	45	31	33	45	43	424
	鼻処置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻ネブライザー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	耳通気	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼓膜マッサージ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	咽頭ファイバー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 薬剤科

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）拡大の中、さまざまな対策をしながら薬剤師2人体制で業務を遂行した。

コミナティ筋注(新型コロナ用)の接種は、利用者・職員共に7回目を終了した。感染症、災害などの非常事態の対策も兼ねて、定時処方薬を3週間分、経腸栄養剤、消毒薬などを備蓄した。

薬事委員会を2023年5月、11月に開催し、新規採用薬の検討だけでなく、「注射箋の書式の改善」や「購入費削減のための後発品への変更」の提案を行い、「薬品在庫一覧」を改訂した。今年度は調剤件数が昨年度より4,400件も増加し、定時処方箋を作成する際には、各棟の意見を取り入れ、剤形や順序を変更し、調剤・配薬しやすいように改善を行った。

— 以下余白 —

2023 年度 薬剤科月例処方箋枚数、調剤件数

項目\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
処方箋枚数	定期薬	712	732	699	726	732	702	725	708	727	725	686	728
	臨時薬	346	399	357	376	468	362	341	362	539	462	351	466
	歯科	0	2	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1
	耳鼻科	7	5	7	5	7	7	5	12	8	8	11	12
	通園	1	0	0	0	0	2	0	1	0	3	0	3
	麻薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	職員	26	14	22	22	17	29	39	28	36	31	34	22
	注射	135	118	104	90	184	58	57	72	119	132	133	102
	合計	1219	1263	1182	1214	1401	1151	1162	1170	1421	1350	1204	1318
1日平均	41	41	39	39	45	38	38	39	46	44	42	43	
調剤件数	定期薬	3363	3541	3076	3358	3330	3210	3536	3307	3337	3172	3126	3282
	臨時薬	420	501	438	616	574	414	396	412	631	570	428	571
	歯科	0	4	0	4	0	0	0	0	1	0	0	2
	耳鼻科	7	5	7	5	5	7	5	12	8	8	12	12
	通園	1	0	0	0	0	2	0	1	0	3	0	3
	麻薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	職員	47	35	36	41	37	47	62	60	56	54	68	34
	注射	261	205	174	166	364	105	126	136	235	273	230	196
	合計	4091	4282	3724	4181	4305	3776	4120	3915	4259	4069	3852	4083
1日平均	136	138	124	135	139	126	133	131	137	131	133	132	
全調剤数	48,657												

<備考> ※歯科・耳鼻科・通園は臨時薬に含まれている

4 放射線科

毎週火曜、金曜日にレントゲン撮影を行っている。実績は以下の通りである。

2023 年度 放射線科月別件数実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
照射録数	40	57	45	47	68	44	36	38	56	51	51	48	591
職員検診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入職検診	9	6	0	0	6	4	1	0	0	0	0	0	26
腹部エコー数	6	18	18	9	13	10	13	10	5	22	15	8	147
胃造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

5 歯科

2023 年度も引き続き新型コロナ蔓延のため、診療病棟を制限し感染予防に非常に注意を払いながら診療を行った。病棟閉鎖や新型コロナ陽性の疑いなどがあり、該当病棟は診療中止とせざるを得ない状況が昨年度よりも多い年となった。

通園の歯科検診および外来診療においては現在まで中止となっているが、問い合わせや電話相談・メール相談などがある場合にはその都度対応した。

2023年度 歯科月別受診人数、診療件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診人数	園内	58	53	56	51	43	36	49	52	29	28	40	53	548
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	58	53	56	51	43	36	49	52	29	28	40	53	548
実施内容	検診及び予防治療	58	33	56	51	43	36	49	52	29	28	40	53	548
	抜歯	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5
	処置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※この表には、保育園及び通園の歯科検診、並びに歯科衛生士によるブラッシング指導は含まれない

6 検査科

1) 職員体制

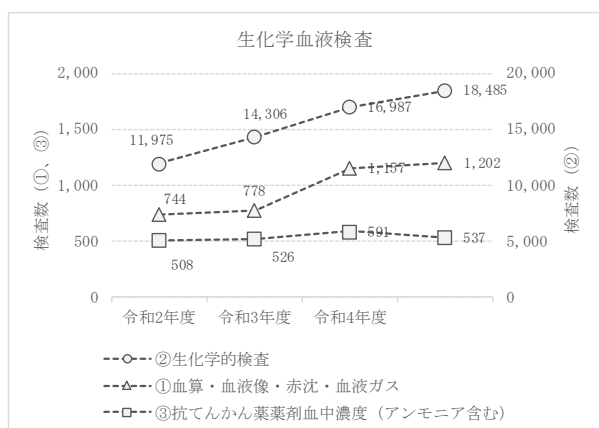
2023年度は臨床検査技師の常勤1人、非常勤1人の体制であった。新型コロナやインフルエンザ等の感染症の流行が繰り返され、検査業務は前年度と同様に多忙を極め、検査数が増えた（下記図2、2参照）。

2) 通常検査業務

利用者の定期血液検査を2回、定期尿検査を1回実施した（度重なる病棟閉鎖などの制約状況下、実施月を随時変更しながらの実施となった）。

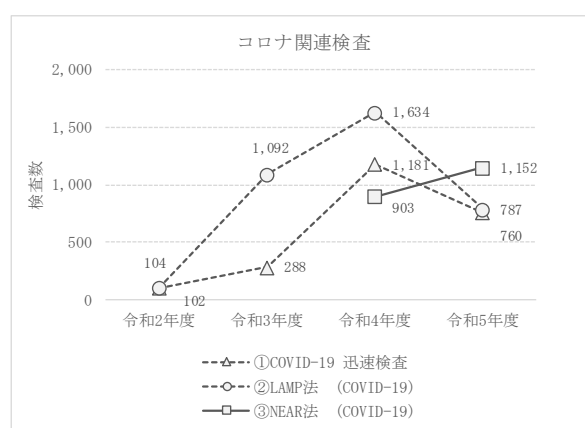
- ① 職員定期健診未受診者に対する健康診断を実施した。
- ② B型肝炎及び風疹・麻疹・流行性耳下腺炎・水痘のワクチン接種関連業務を療育部との協力で実施した。
- ③ 生化学検査項目は、外部精度管理を行い良好な結果を得た。
- ④ 各メーカーや外部担当者と調整してデータ蓄積分析を行い、日常業務内でデータ管理、精度管理をオンライン通信によって行えるよう環境整備を整えた。

図1 生化学血液検査数



(2023年度比約1.3倍)

図2 新型コロナ関連検査数



(2023年度比約2.0倍)

2023年度検査科月別・項目別検査件数

検査項目 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
血算・血液像 赤沈・血液ガス	79	89	155	73	120	85	76	97	127	100	132	69	1202
生化学的検査	758	801	3056	967	1797	1191	1068	2106	2050	986	2738	967	18485
抗てんかん薬血中濃度 (アンモニア含む)	7	2	169	15	52	7	5	86	83	12	81	18	537
心電図検査	10	6	0	1	0	0	0	1	1	1	1	2	23
尿検査	15	47	85	51	32	26	42	56	51	47	39	17	508
便潜血迅速検査	0	0	1	0	0	0	1	2	2	1	0	4	11
真菌検査(白癬菌)	0	0	1	1	0	2	0	2	0	0	2	0	8
インフルエンザ/RSウイルス 迅速検査	2	15	22	101	54	30	38	30	127	71	24	48	562
ヒトタヌキ・アデノ・ノロ 溶連菌など迅速検査	5	7	4	20	43	26	18	18	14	16	8	6	185
COVID-19 迅速検査	61	102	41	63	51	52	52	74	64	63	73	64	760
院内 遺伝子核酸増 幅法 LAMP法(COVID-19)	8	187	131	109	63	68	72	2	0	28	74	46	788
院内 遺伝子核酸増 幅法 NEAR法(COVID-19)	30	146	112	133	140	179	95	43	60	75	94	45	1152
COVID-19 PCR検査 (外注)	0	53	3	3	38	0	1	0	0	0	0	0	98
感染症微生物検査 (培養検査:外注)	22	43	38	17	21	19	26	28	21	16	16	18	285
感染症関連検査 (ウイルス免疫:外注)	14	0	0	28	0	63	91	21	14	14	0	7	252
その他外注検査 骨密度・骨粗鬆症関 連検査含む	9	36	176	35	54	31	27	144	56	33	72	51	724
月別合計	1020	1534	3994	1617	2465	1779	1612	2710	2670	1463	3354	1361	25579

— 以下余白 —

7 リハビリテーション室

1) 職員状況

理学療法士6人（以下PT）、作業療法士3人（以下OT）、言語聴覚士2人（以下ST）

2) 業務状況

2023年度も引続き感染対策を行いながらリハビリテーション医の指示の下、訓練を継続した。

リハビリテーション室の職員は4病棟で構成される病棟のうち、2つの病棟を兼任し、1・2病棟はPT4人、OT1人、ST1人、3・4病棟はPT1人、OT2人、ST1人を配置した（職員状況により変動）。ただし、利用者に感染症が疑われる症状があるときや病棟閉鎖時は、職員を専従として対応した。

支援内容は個別の訓練のほか、日常の姿勢や運動の提案、数人の利用者と職員で実施するグループ活動にて日中活動を行なった。いずれも病棟職員との連携の上に継続的な実施が可能であった。特に病棟閉鎖中や解除後、疾病の重症化や骨折など身体状況に変化があった利用者への支援は、各病棟とリハビリテーション室の職員が綿密な情報共有が改善に大きな役割を果たし、利用者の直接的な支援だけでなく日常的に直接利用者に関わる職員に向けた勉強会の機会を設け、講師として体の動かし方やトランスファー、骨折のメカニズム、摂食・嚥下機能などの専門知識の共有を行った。

訓練の効果については、リハビリテーション総合実施計画書、FIM（Functional Independence Measure）を用いて定期的に評価した。また、嚥下リハビリテーションへの活用のため、放射線技師と協しエコーを用いた嚥下機能評価についての検討を行なった。

エコーについては、今年度の検査結果をもとに、リハビリテーションへの活用について来年度も検討を継続する。その他リハビリテーション医の骨代謝、圧力波療法関連研究への協力も行なった。

2023年度リハビリテーション月別件数実績

PT	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1病棟	292	183	439	351	363	317	349	326	360	311	300	267	3858
2病棟	27	94	40	62	89	11	106	146	76	114	120	95	980
3病棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4病棟	76	6	61	66	168	83	75	53	62	63	65	78	856
計	395	283	540	479	620	411	530	525	498	488	485	440	5694

OT	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1病棟	4	1	10	7	9	6	6	17	15	9	8	7	99
2病棟	125	74	52	60	116	11	50	41	29	36	36	21	651
3病棟	107	134	169	88	142	149	136	139	139	141	137	137	1618
4病棟	55	69	58	52	0	55	66	88	87	76	63	73	742
計	291	278	289	207	267	221	258	285	270	262	244	238	3110

ST	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1病棟	49	26	64	52	48	31	42	48	45	44	22	26	497
2病棟	17	37	16	16	35	3	30	21	18	29	9	18	249
3病棟	60	61	76	24	61	14	26	53	41	39	44	58	557
4病棟	55	63	51	68	60	61	44	70	59	72	50	50	703
計	181	187	207	160	204	109	142	192	163	184	125	152	2006

III 療育部

療育部

1 療育部理念

「私たちは、細やかな目と優しい手で、重症児・者の命を守り生活を支援し、安全・安心・安寧な生涯が送れるよう、チーム療育に努めます。」

療育部は、利用者の直接的処遇・療育全般を業務とする部署で、看護科・支援科で構成されている。4つの病棟は障害者施設等入院基本料により区分され、看護師の配置基準は「一般病床 10：1」を1、4病棟で、「療養病床 20：1」を2、3病棟で採用している。それぞれの病棟で看護科長、支援科長を中心とした管理体制がとられ、利用者の医療と療育を実践している。

2 活動方針

- ① 利用者の生命と健康を守り、安全安楽な生活を送れる様、充実した医療ケアの提供に努める。
- ② 利用者の個性とライフステージに応じた療育活動を通し、豊かな人生が送れる様援助する。
- ③ 療育職員の専門性を高めた人材育成に努め、活気ある療育チーム作りを目指す。
- ④ ご家族と共に個々の利用者の充実した人生を考え、各部署と協力し実現を目指す。

3 園内の状況、

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の世界的な流行が始まって丸4年が経過し、2023年5月8日、新型コロナのフェーズが第2類から第5類相当に下がった。しかし、当園では、翌日の5月9日に利用者の発症を確認し、病棟閉鎖の対策を取った。2023年度は、新型コロナ関連による病棟閉鎖が4回あった。

1) 新型コロナの感染対策

- ①昨年度に引き続き、職員の就業前チェック、体調が悪い時の診察を常時実施し、職員による園内への感染症持ち込み予防を徹底した。
- ②体調が悪い職員は、LAMP法、NEAR法によるPCR検査を実施して対応し感染を防いだ。
- ③東京都より支給を受けた唾液によるPCR検査を全職員に毎週実施した。
(唾液検査実施期間 2021年8月～2024年3月)

2) ワクチン接種状況

利用者、職員とも全てファイザー製のワクチンを接種した。

3) 新型コロナの発生状況

1回目	状況
発生期間	2023年5月9日～5月29日病棟閉鎖
罹患者	第1病棟（利用者：14人 職員17人）
症状	発熱・鼻汁・咳嗽
治療	治療薬ゾコーバ内服11人・ラゲブリオ内服3人
検査	園内にてPCR検査(LAMP法・NEAR法)施行
発生前の状況	2024年5月8日から新型コロナはフェーズが第2類から5類相当となる。

2回目	状況
発生期間	2023年6月11日～6月23日病棟閉鎖
罹患者	第2病棟（利用者：2人 職員3人）
症状	発熱・鼻汁・咳嗽
治療	治療薬ゾコーバ内服2人
検査	園内PCR検査(LAMP法・NEAR法)施行
発生前の状況	6回目のワクチン接種開始前

3回目	状況
発生期間	2023年7月1日～7月12日病棟閉鎖
罹患者	第3病棟（利用者：2人 職員2人）
症状	発熱・鼻汁・咳嗽
治療	治療薬ラゲブリオ内服2人
検査	園内PCR検査(LAMP法・NEAR法)施行
発症前の状況	6回目のワクチン接種中

4回目	状況
発生期間	2023年9月16日～10月6日病棟閉鎖
罹患者	第2病棟（利用者：7人 職員2人）
症状	発熱・鼻汁・咳嗽
治療	治療薬ラゲブリオ内服7人
検査	園内PCR検査(LAMP法・NEAR法)施行
発症前の状況	6回目のワクチン接種終了後

4 入退所状況

本年度10人の新規長期入所者(契約・措置)があり、死亡による利用者の退所は10人となった。

5 その他状況

1) 研修関連

本年度、顧問弁護士を講師に招いて虐待防止の現任研修を実施し、新たな内部通報制度も導入した。研修により職員の知識が深まり、病棟内で意見交換をして更なる対策を行い、職員間で情報共有ができるよう各病棟に「虐待防止ファイル」を設置した。

2) 支援関連

①園内の行事活動

感染状況により外出支援、園外療育、ご家族の行事参加が制限されることもあったが、感染症予防に努め、状況に応じて個別対応をしながら秋津療育園の3大行事である運動会、納涼会（花火実施）、クリスマス会を実施することができた。

②特別支援学校の活動

感染症の影響により、入所児に対する特別支援学校の授業や行事の縮小、リモート授業への変更もあった。本年度は、入所児のうち高等部卒業が1人、中等部卒業が3人を数え、高等部においては感染対策を取りながら4年ぶりに対面で卒業式を行うことができた。

3) 職員の状況

①職員の入退職

本年度、中途採用者を含め看護科職員8人、支援科職員11人が入職した。本年度末迄の退職者は看護科14人、支援科13人、産休・育休の職員、病気治療で長期休養の職員もいたため職員配置は厳しい状況であった。

②人材確保の取組

本年度も看護学校を対象として就職説明会、オンライン就職説明会を実施し人材確保に繋げた。感染症の影響により看護学生の病棟実習が制限されたため、見学実習・オンライン講義を実施した。

③人材育成

東京都のプロフェッショナルナース第7期生育成研修はオンラインと一部対面による1年半のカリキュラムを終え、2023年11月に修了した。当園からは1人が修了証書を受領し、また、1名が看護協会の認定看護管理者を目指しセカンドレベルを修了した。

④EPA 職員の育成

2017年12月のEPAによるインドネシア国籍職員受け入れから6年が経過した。うち、本年度は2人が介護福祉士の資格を取得した。2023年度末時点で、外国籍職員数が13人となった。

(注) EPA とは経済連携協定に基づき、日本で介護福祉士取得を目指して就労する外国人を指す。

4) 面会状況

本年度は、感染症関連で病棟閉鎖となった期間を除き、各病棟とも家族等との直接面会を再開した。直接面会前に抗原検査を実施し、感染予防に努めた。面会実績は月30～50人で、オンライン面会から直接面会に切替えるご家族が多かった。

— 以下余白 —

療育部 第1病棟

1 病棟の状況

1) 入退所の状況

本年度の入退所の状況は、新規入所者計9人（新規入所4人、他病棟より転入5人）、死亡退所が6人であった。2024年3月末時点で超重症児者16人、準重症児者22人であった。

2) 感染症の状況

2023年5月に新型コロナが5類に相当移行した後も病棟内では引続き高いレベルの感染対策を行っていたが、5月9日にクラスターが発生し、利用者14人、職員17人が感染した。利用者は全員治療薬を使用し、点滴管理となった利用者ものもいたが、早期対応により重症化を防げた。

3) 利用者の状況

利用者の高齢化に伴う機能低下や重症化が進むことで医療的ケアが複雑化し、同じ症状を繰り返し治療しても治療が困難になる傾向にある。1病棟は利用者の年齢層が児童から高齢者と幅広いため、早期発見・早期治療に向けた病棟内での情報共有を実施し、個々に合った医療、支援を提供した。

2 取組状況

利用者に豊かな生活を送っていただけるよう工夫を重ね、個別活動・ライフステージに沿った活動（発達支援活動など）・少人数活動を軸とする取組を展開した。

1) 個別活動

個別活動については、短い時間でも取り組める仕組み（活動の一覧化・マニュアル化・実施表の簡易化）のもとに実施した。医療度の高い利用者には、同一体位による変形拘縮予防と呼吸機能改善を目指し、車椅子乗車や腹・側臥位の実施、筋緊張をほぐすマッサージを積極的に取り入れた。

2) 発達支援活動（たんぼぼくらぶ）

ライフステージに沿った活動の主軸である発達支援活動は、実施後の振り返りや定期的な個別評価に力を入れ実施した。利用者個々の特性を活かすことを意識したアプローチの継続により、成長や変化がみられた。また、特別支援学校からの卒業生を受け入れ、カレッジ活動（樺大学）も定期的にも実施し、切れ目のない支援に繋がった。

3) 少人数活動（グループ活動）

少人数活動は、コロナ禍において感染対策のための距離の確保や取組が制限されることもあったが、問題なく実施することができた。

4) お楽しみ会

感染対策を取りながら、毎月3回お楽しみ会を実施した（クラスター発生時は除く）。

5) 生活支援

生活支援については、居室単位で絵本の読み・タブレットとBluetoothスピーカーを使用した音楽遊び、映像鑑賞を行い、運動機能を落とさないための乗車訓練、体をリフレッシュする外気浴、リモート面会を実施した。

6) 取組内容

① 発達支援活動

長期目標	個別設定・達成した時点で次段階へ移行
短期目標	個別設定・達成した時点で次段階へ移行
参加者	19歳以下の5人→8人 (利用者の入園に伴い、8月から6人、1月から月1回8人)
職員	保育士・リハビリテーション室職員
場所	第1病棟 プレイルーム
内容	<p>① 始まりの挨拶（始まりの歌・呼名） くじ引きで呼名の順番を決める 返事をするまでの時間を設ける</p> <p>② あそびうた（個別） 対象物を用いて、各々の目標とする動きを引き出す</p> <p>③ あそびうた（グループ） 曲に合わせボディタッチ、他園生との触れ合いを楽しむ それぞれが注目される場面をつくる</p> <p>④ 終わりの挨拶（終わりの歌）</p>
まとめ	<p>① 毎週土曜日実施 全47回実施</p> <p>② 新型コロナによる病棟閉鎖や感染症拡大防止による居室対応もあったが、活動を積み重ねていた結果から、再開時にも普段と変わらず参加した。</p> <p>③ 今年度は1人高校を卒業し、学生は4人（中学生2人、高校生2人）となった。</p> <p>④ 病棟内利用者が大学活動に参加できるようになるまでの間、19歳の利用者1人は発達支援活動と大学活動を兼任し、今年度をもって卒業することとなった。7月に新規1人（中学生）が入園し、8月から6人での活動を開始した。11月に新規2人（高校生1人、3歳）入園し、活動に慣れるために1月から月1回の参加を開始した。</p> <p>⑤ 今年度も利用者の体調面などを考慮し午前、午後の二部構成で実施した。</p> <p>⑥ 昨年度と同様、4ヶ月ごとに利用者の状況を評価し、誰が見てもわかりやすいように関数計算を用いて、できている部分とうまくできなかった部分を表にした。表を基に職員間でアプローチ方法を話し合い共有したことで、視線や手足の動きなど目標に対する反応を引き出すことができた。</p> <p>⑦ ポンパ（小児用クッションチェア）、クッションチェアに座りのアプローチを組み合わせることで、積極的に対象物に触れることが多くなった。対象物、音楽は、前年度と同じものを使用し実施した。触れた際に感触の違いをすぐに感じるように、タオル地とナイロン製の生地を増やす工夫をした。</p>

② カレッジ活動

活動内容	サークル活動
活動目的	<p>① さまざまな姿勢で活動に参加する中で、自ら動く機会を作る</p> <p>② 参加者が主体的に活動に参加し、学習する機会を作る</p> <p>③ 同世代の仲間を意識し、集団の中で自己を表現する</p> <p>④ 職員が利用者と同じくかかわる場を作る</p>
学習目標	さまざまなゲームを通して、関心や色々な利用者に興味を持つ
個人目標	個別設定 年度末に評価 達成したら、次段階へ設定・移行
参加者	1棟利用者の中で体験入学を実施した。今年度は参加者の目標を設定しなかった。
参加職員	病棟支援科職員・リハビリテーション室職員・療育サービス課職員
場所	第1棟 プレイルーム
内容	<p>1) 始まりの挨拶（校歌・呼名・目標の確認） 活動内容の確認</p> <p>2) 主活動</p> <p>① ゲームソフト：スプラトゥーンを模倣しながら、音楽が流れている時間内に絵の具</p>

	<p>を使用し、個々に合わせた手法にて画用紙に模様を作る</p> <p>② ボッチャ：投げる・転がすなど自身に合った方法で実施する。また、最終目的地点に楽器を配置することで、音で感覚を感じる</p> <p>③ 教材を用いて、個々の目標とする動きを引き出す</p> <p>④ タブレットを使用し、映像を観ながら自身で体験する</p> <p>⑤ 対象物を用いて、各々の目標とする動きを引き出す</p> <p>3) 終わりの挨拶</p> <p>① 目標の達成度を評価</p> <p>② 活動内容の写真や動画を見て自分の姿を見る</p>
まとめ	<p>① 参加者を対象年齢に該当する利用者を各居室より選出し、新型コロナの予防対策に努めた。</p> <p>② 月1回実施 全9回実施（1人あたり3～5回参加）</p> <p>③ 太田ステージで、参加利用者の発達段階を評価し目標設定した。</p> <p>④ 目標に対する達成度を数値化したところ、平均得点は60点中53.1点だった。利用者の参加数や表出が引き出せなければ点数は下がるが概ね高評価であり、活動を通して利用者の持つ能力を引き出した。</p> <p>⑤ 病棟職員・リハビリテーション室・療育サービス課と共同で行うことで場面や情報の共有の場となった。</p>

③少人数活動

活動内容	リラクゼーション活動 スヌーズレン
目標	<p>①少人数の活動を楽しむ(活動を通してリラクゼーションを促す)</p> <p>②ゆったりとした空間で穏やかな時間を過ごし、五感を刺激していく</p>
参加者	37人
場所	病棟内
まとめ	<p>① 計11回実施</p> <p>② 新たに購入したプロジェクターを使用することで部屋全体に光が届き、どの向きからでも楽しめるようになった。</p> <p>③ パーテーションにシーツを掛けることで、光の色が綺麗に映し出され、利用者の視線の動きや楽しそうな表情の変化が見られた。</p> <p>④ 使用する備品を1つか2つに絞り、利用者の視線の高さで一緒に参加する事で、顔の表情や手指の動きなどの変化に繋がった。</p>

④リラクゼーション活動

活動内容	マッサージ
目標	<p>① 少人数の活動を楽しむ(活動を通してリラクゼーションを促す)</p> <p>② 参加者に合わせたマッサージを提供し、心身ともにリラックスした時間を過ごす</p> <p>③ 落ち着いた空間の中で身体に触れリラックスを図る</p>
参加者	25人
場所	病棟内
まとめ	<p>① 計12回実施</p> <p>② 使用物品や映像、音楽を統一することで準備の時間を短くすることが出来た。</p> <p>③ スクリーンの映像を2種類に厳選し、参加者に合わせて森林浴や海の映像を使用した。</p>

— 以下余白 —

⑤音楽活動

活動内容	車椅子ダンス
目標	① 少人数の活動を楽しむ(参加者みんなで1つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ② 車椅子ダンスを楽しむ ③ リズムや音調を感じ取り、音楽・体の動きを楽しむ
参加者	29人
場所	病棟内
まとめ	① 計10回実施 ② 全員対象の曲を1曲追加し、年齢に合わせた曲と計3曲を使用して実施した。 ③ 活動内容により季節感を出すことで、参加者の反応の違いが見られた。

⑥音楽あそび

活動内容	音楽あそび
目標	①少人数の活動を楽しむ(皆で1つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ②リズムを身体で感じる ③ 職員との触れ合いの中で心地良い繋がりを感じリラックスする ④ 音楽の楽しさに触れる
参加者	37人
場所	病棟内
まとめ	① 計14回実施 ② 視力障害のある参加者に新たに振動スピーカーを導入したことで変化が見られた。 ③ 最初はタッピングで楽しい雰囲気を作り、最後には照明を暗くして変化を与えることで、利用者のリラックスした表情が多く見られた。

⑦体験活動

活動内容	ドライブ
目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で1つのことに取り組み職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ② 外の景色を眺め、バスの揺れを感じながらドライブを楽しむ
参加者	32人
場所	園周辺
まとめ	① 計11回実施 ② 季節に合った景色の良いコースや、参加者の興味に合わせて実施した。 ③ 利用者の急変に対応できるよう看護師が同乗の上実施した。

⑧プール活動

目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で1つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ② 水面に浮かぶことでリラックスを図る ③ 水の心地よさを感じ、水遊びの楽しさを体験する
参加者	8人
場所	1病棟浴室
まとめ	① 計2回実施 (浴槽にて実施) ② スクリーンを使用し、海の映像を見ながら音楽を流すことにより視覚や聴覚に刺激を与えたことで、利用者の表情が変化した。

⑨ 体験活動：大型遊具

活動内容	体験活動：大型遊具
目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で1つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ② 大型遊具に触れ、身体を動かすことや普段と違った遊びを楽しむ
参加者	23人
場所	プレイルーム
まとめ	① 計6回実施(エアートランポリン3回 ボッチャ3回) ② エアートランポリン ③ 体動が多い参加者には、他の利用者と接触がないよう距離を取った。 ④ 音楽に合わせて、参加者の表情、発声などで気持ちを推測しながら活動にメリハリをつけた。

⑩ 体験活動：スクリーン

活動内容	スクリーン
目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で1つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ② 静かな環境で映像を上映し、観ることを楽しむ
参加者	2人
場所	病棟内
まとめ	① 計1回実施 ② 他の活動で映像鑑賞が可能となったため、今年度で終了となった。

⑪おしゃれ

活動内容	おしゃれを楽しむ
目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で1つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ②洋服を着替え、ネイルやスキンケア、ヘアセットを行うことで女性としての喜びを感じる ③ お披露目や写真撮影を行い、コミュニケーションを図りながら雰囲気を楽しむ
参加者	4人
場所	病棟内
まとめ	① 計2回実施 ② 参加者の好みや雰囲気を考え、事前にコーディネートした服を2～3パターン準備し、お店のような雰囲気作りに努めた。 ③ ネイルアートでは、数種類のネイルシールから選べる工夫をした。 ④ 利用者個々の好みに合わせて活動を行った。

— 以下余白 —

療育部 第2病棟

1 病棟の状況

1) 入退所の状況

本年度の入退所の状況は、新規入所者2人、転出1人（他病棟へ転出）、死亡退所が2人であった。2024年3月末時点で準重症児者8人であった。

2) 感染症の状況

2023年6月11日に利用者2人、職員3人、9月16日に利用者7人、職員2人が新型コロナウイルスのクラスターによって感染したが、早期対応により重症化する利用者はいなかった。

3) 利用者の状況

近年、高齢化などにより咀嚼嚥下機能の低下が顕著になり、食形態の変更や食事姿勢の見直し、高カロリー（ゼリー）などを導入、個々の摂食・嚥下能力に合わせた食形態の提供、リハビリテーション室による摂食機能評価を実施して利用者が可能な限り経口摂取できるよう取組んだ。

日常生活において利用者の思いや希望、治療などに対する意思決定などが言語で伝えられないため、多職種を交えて意見交換を行い、ご家族の意向を踏まえた上で支援を行った。

感染症の影響から活動が制限される中で、居室で可能な座位訓練や、専門器具を使用しているリハビリなど利用者個々の状態に合わせた機能訓練を行った結果、以前よりも身体機能の低下は減少した。

2 取組状況

1) 取組実績

①料理教室

活動内容	料理教室
実施回数	7回
参加者	38人
場所	各居室
まとめ	スポンジケーキ、ミルクティーを提供した。

② プレけやき大学

活動内容	① 散歩(季節を感じる) ② プロジェクター使用した映像鑑賞 ③ トランポリンや素材に触れる感覚遊び ④ 楽器遊び ⑤ ピアノ観賞
目的	① けやき大学にスムーズに移行できるようにする ② グループ活動を行なうことで他者を意識する ③ 興味の拡大、機能の維持や向上
実施回数	8回
参加者	4人
場所	中庭8号室
まとめ	新たな感覚遊びを多く取り入れたことで利用者が興味を持つ場面が増え、変化が見られた。

③ 散歩・ドライブ

目的

散歩・ドライブ活動を行い、街の様子など普段と違った雰囲気や景色を見ることで、新たな発見・楽しみを体験する。環境を変えることでストレスの軽減を図る。

内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
散歩	人数	83	105	55	32				43	68	52	21	73	532人
	回数													
ドライブ	人数	8	14	10	8	10	14	10	16	12	10	17	20	149人
	回数	4	7	5	4	5	7	5	8	6	5	8	9	68回
ドライブ 散歩	人数	10	6	6	4	6			4	6	2			42人
	回数	5	3	3	2	3			2	3	1			22回

④王子様カフェ

目的

- ・園庭に出て季節を感じながらデザートを自分で選び味わう。
- ・普段食べないものを味わうことで新たな発見、楽しみを体験する

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	15	8	8	16	16	15	14	17		18	8	8	143人
回数	2	1	1	2	2	2	2	2		3	1	1	19回

2) グループ取組実績

① 音楽取組

活動内容	音楽取組（ピアノ演奏会、楽器演奏会）
目的	① 個々に合った音楽を聴き楽しむ ② 音楽に触れ、気分転換を図る
実施回数	ピアノ演奏会 7回 参加者 55人 楽器演奏会 7回 参加者 47人
場所	大会議室、病棟内浴槽

②リラクゼーション

活動内容	リラクゼーション活動 ・ホットパックとマッサージ ・CDにてリラクゼーション音楽鑑賞 ・美容エステとおしゃれ体験
目的	① 心身共にリラックスする ② 主訴・症状に合わせたマッサージを提供し軽減を図る（便秘、下肢のむくみ、冷え、皮膚の乾燥、筋緊張など） ③ オシャレを楽しみ、スタッフに声をかけてもらい、喜びや楽しみを感じる
実施回数	マッサージ 11回 参加者46人 おしゃれ 1回 参加者5人
場所	各居室

— 以下余白 —

④スヌーズレン

活動内容	スヌーズレンを用いてのリラックス
目的	① 穏やかな光・音・振動を感じて心身共にリラックスする ② 職員とコミュニケーションを取ることで気持ちが満たされる
実施回数	19回 参加者 118人
場所	棟内風呂場 居室内 8号室
特記事項	バイブレーションホース、チェーンブランケットを用いることで情動行動が落ち着く利用者がいた。

— 以下余白 —

療育部 第3病棟

1 病棟の状況

1) 入退所の状況

本年度の入退所の状況は、新規入所者はいなかった。2024年3月末時点で準重症児者3人であった。

2) 感染症の状況

2023年7月1日に利用者2人、職員2人が新型コロナのクラスターによって感染したが、早期対応により重症化する利用者はいなかった。

3) 利用者の状況

コロナ禍での療育や日中活動、制限された生活様式は利用者にとっては負担となり、ストレスから情緒が不安定になる利用者が多くいた。病棟利用者の平均年齢が58歳になり、リハビリテーション室と連携して運動機能低下の予防対策を行った。

2 取組状況

1) 取組実績

前年度に引き続き、コロナ対応のため居室単位で過ごす時間が多かったが、感染状況や利用者の健康状態に配慮しながら活動内容を見直し、その種類を増やして活動の幅を広げることができた。

① 料理教室

活動内容	料理教室
目標	① 季節に応じた文化行事を体験する ② さまざまな体験をすることにより活動の幅や興味の拡大を図る
実施回数	8回
参加者	37人
場所	各居室
まとめ	スポンジケーキ、ムースケーキ、紅茶、カフェオレを提供した。

2) 病棟全体の取組

目標	① 季節に応じた文化行事を体験する ② さまざまな季節を体験することにより活動の幅や興味の拡大を図る
活動内容	バレンタインデー、ホワイトデー、音楽会、ジュース会、園芸、お楽しみ会、ドライブ、実験、年賀状、暑中見舞い制作
参加者	利用者40人、職員25人

3) グループ取組

① 園芸

活動内容	園芸（植物の成長過程の観察や手入れ、収穫の実施）
目的	① 土や野菜に触れ、野菜の成長過程を楽しむ ② 収穫体験や制作を通して植物に触れる機会を設ける
実施回数	14回
参加者	利用者24人 職員4人
場所	病棟内
まとめ	野菜の感触や香りを楽しみながら収穫体験ができた。

②勉強

活動内容	勉強
目的	利用者の身近な事柄に関する知識の提供
実施回数	16回
参加者	利用者12人 職員3人
場所	病棟内
まとめ	体験型の内容を中心に行った。

③スヌーズレン

活動内容	スヌーズレンを用いてのリラックス
目的	① 穏やかな光・音・振動を感じて心身共にリラックスする ② 職員とコミュニケーションを取ることで気持ちが満たされる
実施回数	19回 参加者118人
場所	棟内風呂場 居室内 8号室
特記事項	バイブレーションホース、チェーンブランケットを用いることで情動行動が落ち着く利用者がいた。

④音楽

活動内容	音楽（ライブ動画鑑賞）
目的	大画面でコンサート映像を楽しむ
実施回数	12回
参加者	利用者15人 職員3人
場所	病棟内、大会議室
まとめ	映像の素材としてYouTubeを活用した。

⑤運動

活動内容	運動（利用者の機能に合わせた運動やストレッチの実施。活動後にリラクゼーション、マッサージを行う）。
目的	利用者の運動に合わせた活動の提供
実施回数	23回
参加者	利用者28人 職員4人
場所	病棟内、
まとめ	身体の変形や機能予防低下の予防のためマニュアルを更新した。

— 以下余白 —

療育部 第4病棟

1 病棟の状況

1) 入退所の状況

本年度の入退所の状況は、新規入所者4人、転出4人（他病棟へ転出）、死亡退所が2人であった。2024年3月末時点で超重症児2人、準重症児者10人であった。

2) 感染症の状況

本年度は新型コロナのクラスター発生はなかったが、感冒流行により2023年8月10日～29日まで病棟閉鎖を行った。

3) 利用者の状況

本年度受け入れた新規入所者は、年齢が18歳～53歳と幅広く、動く重症児、長年在宅で生活している方など利用者の生活基盤が異なるため、個々に合った支援方法確立のため時間を費やした。

入所者の状況は、加齢に伴う疾患や全身状態の不良や悪化、経鼻経管から胃瘻造設への移行、全体的に吸引や注入など医療的ケアのスコアが高くなり、超重症児・準超重症児に該当する人数が増えた。

2 取組状況

1) 取組実績

①個別活動

活動内容	サウンドヒーリング、スヌーズレン、セラピー、散歩、外気浴、運動
目的	個別支援計画に準じ個々に適した活動を実施する
実施回数	毎月1～5回
参加者	利用者30人、4病棟職員全員
場所	病棟内

②ドライブ活動

活動内容	ドライブ（園外を車でドライブする）
目的	① バス乗車・ドライブを楽しむ ② 情緒の安定・気分転換を図る
実施回数	毎月2～4回
参加者	利用者30人、4病棟職員全員
場所	多摩湖、西武園

③リハビリ活動

活動内容	個々に合わせた機能運動・動作をする
目的	① 体機能の低下の防止 ② 身体を動かしささまざまな刺激を楽しむ機会を作る
実施回数	毎週火曜日、金曜日
参加者	利用者9人、4病棟職員全員
場所	病棟、多目的室

④デザート（お茶会）

活動内容	数人でスイーツを食べる
目的	季節に合わせたスイーツを楽しむ
実施回数	月1回
参加者	利用者9人、4病棟職員全員
場所	多目的室、大会議室

IV 榮養管理室

栄養管理室

1 利用者の栄養管理

食事の種類

①栄養量は、No.1 からNo.8 までの8段階の区分（2014年7月1日より）

②主食は、御飯・粥・パン粥・ペースト粥

③副菜は、常食・軟菜食・すりつぶし食・特すり食（2013年10月1日より）・特別食

2 給食数

1) 2023年度 利用者給食数と食形態別

(単位:人)

2023年度	常食	軟菜食	すりつぶし食	特すり食 (特別食)	流動食	合計
4月	10	32	72	6	51	171
5月	10	32	65	7	51	165
6月	10	32	66	6	57	171
7月	11	33	67	7	52	170
8月	11	33	67	8	52	171
9月	11	34	72	8	51	176
10月	11	34	71	8	45	169
11月	11	34	71	8	47	171
12月	11	34	72	8	48	173
1月	11	33	70	8	50	172
2月	11	34	72	7	49	173
3月	12	36	54	6	63	171
合計	130	401	819	87	616	2053

2) 職員・通園センター食数（1日平均の食数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
職員（朝食）	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1
職員（昼食）	82	68	74	72	77	83	87	87	86	86	85	84	80
職員（夕食）	7	7	7	9	10	10	12	13	12	12	12	12	10
通園センター	8	8	8	9	8	8	8	9	9	9	8	9	8
合計	98	84	90	91	96	102	108	111	108	108	107	106	100

3. 給食委員会の報告

	討議内容	栄養指導
4月	委員会要望書、間食申し込み	給食委員会規約、年間業務
5月	選択メニュー、デザートバイキング日程とメニュー	体内時計を整えよう
6月	デザート・昼食バイキング概要、とろみ・訓練皿	食事や食習慣で認知症を予防しよう
7月	昼食バイキング日程、要望書、希望献立、行事食	体調管理に必要な栄養素 ～ビタミン、ミネラル～

8月	病棟と意見交換、昼食バイキング	暑い夏こそ注意 鉄欠乏性貧血を予防しよう
9月	昼食バイキング、選択メニュー、要望書	9月1日は防災の日 もしものための食料備蓄
10月	昼食バイキング、選択メニュー、要望書	むくみの原因と対策を知ろう
11月	昼食バイキング配膳方法、クリスマス、非常食	歯の健康を考えよう
12月	行事食の日程、バイキング、選択メニュー	腸を整えて感染症を防ぐ 免疫と腸内環境の関係
1月	病棟と意見交換、昼食バイキング、希望献立用紙	健康寿命にも関わる なぜ減塩が必要なのか
2月	次年度バイキング、間食申し込み、バレンタイン	『冬型栄養失調』 寒い時に不足しやすい栄養素
3月	バイキング、来年度検討事項、要望書	良い睡眠で元気に過ごそう

4 特別メニュー

① メニュー

メニュー	内容
行事食	利用者の年間行事食は下記献立表を提供した。 この他に、月1回の「誕生会」はおやつがショートケーキ、昼食、夕食に行事食を実施した。 季節行事食（栄養管理室独自の名称）は誕生会以外の日を実施した。
郷土料理	各地方風土が作り出した独特のもので、材料の切り方や食べ頃の温度が大切である。月に一回実施した。
世界の家庭料理	世界各国の家庭料理を食べやすくアレンジして月に一食分を実施した。 4月 イタリア料理 10月 スペイン料理 5月 韓国料理 11月 アメリカ料理 6月 ロシア料理 12月 日本料理 7月 イタリア料理 1月 イタリア料理 8月 中国料理 2月 日本料理 9月 フランス 3月 イギリス料理

② 献立

月	行事	献立
4	季節	昼 黒パン、牛乳、鯖のムニエル、コーンと菜の花ソテー、お花見ゼリー
	行事食	夕 春の三色丼、清汁、イカと新じゃが煮、桜エビとキャベツの和え物
	郷土料理	小田巻蒸し（大阪）
5	季節	昼 ロールパン、牛乳、魚のグリルバター醤油、ソテー、カリフラワーとおかかのマヨネーズ和え
	行事食	夕 二色丼、清汁、温野菜サラダ、青菜のごま和え
	郷土料理	石狩鍋風スープ（北海道）
6	季節	昼 黒糖パン、牛乳、お肉の三重奏、梅の和風ポテトサラダ、ムース黒糖ソース
	行事食	夕 枝豆御飯、味噌汁、豆腐三色テリーヌ、彩り野菜ソテー、野菜とカニ柚子和え
	郷土料理	ごった煮

7	季節	昼 ミルクパン、牛乳、グラタンコロケ、黄桃と白桃サラダ、南瓜ムース	
	行事食	夕 御飯、清汁、鶏団子黒酢炒め、揚げ茄子冷製香ソース、白菜と青菜サラダ	
	郷土料理	だご汁（熊本）	
	創立記念日	おやつ→創立記念 抹茶デザート、パインとベリー杏仁豆腐、紅茶	
8	季節	昼 ロールパン、牛乳、鶏の唐揚げ、茹で卵アボガドサラダ、カルピスムース	
	行事食	夕 御飯、味噌汁、南瓜焼きコロケ、かぶと油揚げ煮付け、小松菜の和えもの	
	郷土料理	ひやしる（山形）	
9	季節	昼 黒パン、牛乳、鶏肉の中華蒸し、南瓜バター炒め、ブロッコリーおかかマヨ	
	行事食	夕 御飯、清汁、鮭ときこのガリバター醤油、里芋のみぞれ揚げ出し、なすとかにのさっぱり和え物	
	郷土料理	筑前煮（福岡）	
10	季節	昼 ミルクパン、牛乳、豆腐の三種盛、海老と野菜の彩りサラダ、まるやかマロン	
	行事食	夕 御飯、味噌汁、鱈のグリルクルミソース、かぶの和風ファルシー、中華サラダ	
	郷土料理	むらくも井	
11	季節	昼 黒パン、牛乳、オムレツラタトゥイユ添え、スイートポテトクリーム、りんごドレッシングサラダ	
	行事食	夕 栗御飯、清汁、あったか五目豆腐、柿の大根サラダ、きゅうりとツナ和え物	
	郷土料理	きりたんぼ（秋田）	
12	季節	昼 黒パン、牛乳、鶏豚バーグのふわとろあん、きのこベーコンの炒め物、フルーツ寄せ	
	行事食	夕 御飯、味噌汁、豆腐団子の酢豚風、茄子の揚げ浸し、キャベツと海老のナムル	
	クリスマス	昼	レーズンロール、牛乳、クリスマスプレート、シーザーサラダ、トリコロールゼリー
		夕	ガーリックライス、コンソメスープ、ビーフストロガノフ、海鮮サラダ風
	郷土料理	ジンギスカン（北海道）	
1	お正月	昼 黒糖パン、牛乳、卵で初日の出、南瓜のハニーソース、りんごのコンポート	
	行事食	夕 御飯、清汁、羽子板ハンバーグ、付け合わせ、プチおせち、紅白なま酢	
	季節	昼 うずまきミルクパン、牛乳、コーンスキムオムレツ、シュリンプサラダ、りんごきんとん	
	行事食	夕 七草粥、味噌汁、鮭ときこのポタージュ、みそポテト、なす南蛮漬け	
郷土料理	キャベツの博多蒸し（福岡）		
2	季節	昼 コッペパン、牛乳、白身魚トマトバターソース、ブロカリサラダ、バレンタインのムース	
	行事食	夕 御飯、味噌汁、りんごハンバーグ、青梗菜と海老の豆乳煮、コーンと人参和え	
	郷土料理	すいとん	
3	季節	昼 ミルクパン、牛乳、サイコロステーキ、桜エビと青のりポテサラ、クレームダンジュと果物コンポート添え	
	行事食	夕 ちらし寿司、清汁、梅としその鶏つくね、和風コールスローサラダ	
	郷土料理	源平生酢	

③選択メニュー

利用者の食べやすいメニューを食事形態別にそれぞれ調理をする形式。丼物やパン類、主菜の新メニューの内容を検討して、幅を広げた選択メニューを実施した。一日の昼食と夕食について1と2のいずれが好みかを写真より選択し、希望の食事を準備した。

日時	昼食選択メニュー	夕食選択メニュー
4月6日	1 鶏肉の黒酢ソース 2 蒸し鶏のネギソース	1 釜焼きビビンバ 2 オムライス デミグラスソース
5月28日	1 鮭と青菜のアーリオ・オーリオ風 2 白身魚の彩り揚げ	1 海鮮ドリア 2 クッパ
6月2日	1 手作りようかん 2 パンナコッタ カラメルソース	1 すき焼きハンバーグ 2 ハンバーグサルサソースかけ
7月29日	1 ラザニア 2 ミートボールグラタン	1 ビーフシチュー 2 オニオングラタンスープ
8月8日	1 洋梨のムース 2 冷やしぜんざい風	1 パエリア 2 冷汁
9月7日	1 卵サンドイッチ 2 エビマヨサンドイッチ	1 魚のアクアパッツァ風 2 魚の味噌マヨ焼き
10月6日	1 豆腐と鮭のグラタン風 2 麻婆豆腐	1 蟹入りあんかけチャーハン 2 ライスピザ
11月8日	1 クリームサンド フルーツ 2 クリームサンド チョコソース	1 サイコロステーキ和風おろし 2 さんま塩焼き
12月7日	1 南瓜のパンナコッタ 2 カフェオレムース	1 牛丼 2 ふわふわカツ丼
1月24日	1 八宝菜 2 鮭のバターホイル焼き	1 ミートローフお好み焼きソース 2 ミーローフコーンマヨソース
2月7日	1 鶏肉の煮込みカチャトーラ風 2 チーズダッカルビおろしソース	1 海鮮チーズリゾット 2 鮭漬け丼
3月7日	1 魚のテリーヌ 2 魚のタンドリー風カレー	1 煮込みハンバーグ 2 ミートボール トマト煮込み

5療育のお弁当とおやつ、料理教室

- 1) 園外療育のお弁当は、感染症予防のため今年度実施なしとした。
- 2) 園内宿泊の夕食配膳は、感染症予防のため今年度は実施なしとした。
- 3) 料理教室は、利用者中心にメニューを病棟で計画し栄養管理室職員と調整して行った。
今年度は、感染症予防で栄養管理室職員と利用者との接触を避けたため、調理作業は一緒に行わず、厨房内でスポンジケーキかムースを配膳し、園生が各自でトッピングをして喫食をした。

4) バイキング食

①デザートバイキング 今年度は感染症予防で、メニュー数を減らし配膳する形式で実施した。

病棟	日時	献立
第1病棟	7月25日	コパイン、抹茶オペラ、八つ橋風ゼリー オレンジジュース、グレープジュース
第2病棟	8月3日	オレンジチョコマール、二色団子、やわらかたこ焼き 紅茶
第3病棟	8月10日	オレンジチョコマール、なめらかコーヒプリン、すいかあんこ グレープジュース、ミルクティー
第4病棟	7月12日	抹茶オペラ、すいかあんこ アップルジュース、ミルクティー

②昼食バイキング 今年度は感染症予防で、メニュー数を減らし配膳する形式で実施した。

病棟	日時	献立
第1病棟	11月24日	レアチーズとココアのしましま、ココパイン、やわらかたこ焼き オレンジジュース、グレープジュース
第2病棟	11月16日	トマトとオムライスデミグラスソース、フレンチトースト お刺身盛り合わせ、海老のケチャップソース、カレーチキン 帆立とかにの蒸し物、豆腐のバター醤油、ソフトなす田楽 ポタージュ、レアチーズケーキ、ピーチゼリー
第3病棟	11月9日	トマトとオムライスデミグラスソース、お刺身盛り合わせ BBQ ミートローフ風、エッグベネディクト、豆腐スンドゥブ ソフトなす田楽、ポタージュ、バニラアイスイチゴソース グレープジュース、オレンジジュース
第4病棟	2月16日	トマトとオムライスデミグラスソース、海老のケチャップソ ース、BBQ ミートローフ風、エッグベネディクト、豆乳ごまソフト豆腐、 野菜の彩りムース、ポタージュ、イチゴとチョコのムース、 アップルジュース

— 以下余白 —

V療育サービス課 施設内訪問学級

療育サービス課

1 業務内容

1) 長期契約利用者への支援

長期契約利用者が安心して生活できるように、保護者または成年後見人の世代交代、成年後見人選任・変更、車椅子・補装具の申請手続きなどについて、関係機関と連携し適切な支援を行った。

2) 利用者の入退所に係る業務

①退所

施設からのお見送りの支援を行った（ご家族・後見人との相談、病棟との連絡調整、園内・後援会への連絡）。

②入所者決定まで

園内選考会議の参加・選考資料作成及び東京都への提出・候補者管轄区市町村および該当病棟との連絡調整を行った。

③入所者決定後

ご家族・管轄区市町村担当者・候補者の利用機関との連絡調整該当病棟との連絡調整・他関係部署への連絡。

④更新手続き

利用者の生活に役立つ資料の提供・活用しやすいデータの整理・管理・すみやかな更新を行った。

⑤計画相談作成

障害福祉サービス受給者証の発行・更新に伴う、サービス等利用計画等の計画相談を作成した。

⑥活動について

日中活動への参加・利用者が参加できる活動の提供をした。

3) 在宅障害児・者への支援

在宅障害児・者およびその家族の生活を支えるために、短期入所・医療入院の受入れを含めさまざまな相談に応じて利用者側に情報提供を行い、関係機関と連携し適切なサービスが受けられるよう支援した。

4) 施設の窓口業務

①ボランティア、外部からの研修、実習生、見学などの受け入れ、連絡・調整を行った。

②インターネット上に施設紹介のページを作成し、地域やボランティアなど外部とのつながりを深めるための活動を強化した。

5) 行政から依頼される各種資料データのまとめ・提出を行った。

2 業務状況

1) 利用者への支援

①療育活動

映像と生演奏を組み合わせた音楽活動は、本年度初めに各病棟へプレゼンテーションを行い、目的や内容について共通認識のもとに取り組むことで、各病棟のニーズに合わせた活動を実施することができた。

②ご家族への支援

新たなメール配信サービスによる連絡網を導入したことにより、感染症の流行や経過報告、面会の再開など施設からの連絡を適時に知らせることが可能となった。

③利用者の退所の状況

利用者の死亡退所が 10 人、死亡者のうち最長在園年数は 58 年、平均在園年数は 30 年であった。

2) 新規長期入所選考について

①利用者の高齢化やその他症状の変化により死亡退所が増えている。例年、長期入所の選考は年平均 1～2 回であったが、本年度は 5 回に増え、長期入所の手続きを進めていても選考段階で入所を希望しない選択をする家族や、診察期間や補欠待機中に死亡してしまった事例もあり、補欠候補者を確保することが困難であった。

②新規募集について選考方法など共通認識のもと、関係部署の状況を踏まえて選考できるように調整を行った。

3) 在宅障害児（者）への支援

①短期入所の受け入れ体制の見直しを行い、長期入所と短期入所の病床数を変更した。従来、短期入所の 3 床は 1 棟に確保していたが、2024 年 4 月から 1、2、4 病棟に各 1 床ずつ確保することとした。

②短期入所の稼働率は回復傾向にあるが、需要が多く、月によっては 2～3 人の方の利用を断っている状況にあるため、受け入れ体制を見直し改善を図った。

2. 2023 年度実績

1) 入所者への支援

長期入退所	<ul style="list-style-type: none">・死亡退園：10 人・新規入所者：10 人（東京都長期入所選考：5 回） 入園に向けて、行政・入所前利用していた事業所との連絡 入園時契約、後援会との連絡
利用者および 家族関係	<ul style="list-style-type: none">・成年後見人選任、変更、追加の連絡 相談：10 件 (内訳：後見人選任 2 件 変更追加 5 件 後見人の逝去 3 件)・住所変更などを含む「療育サービス課からのお知らせ」発行：31 件・ワクチンなどの同意書の送付・回収 肺炎球菌（対象者 17 人）、インフルエンザ、Covid-19 ワクチン・医務部、療育部より 書類の送付・回収 「療育のお知らせ」、個別計画・サービス提供記録書等・直接面会の対応 延べ利用者：414 人・メール配信サービスによる連絡網の導入 年間配信：40 件
リハビリ関係	<ul style="list-style-type: none">・車椅子、補装具の新規製作や修理時の連絡、書類手続き 延べ 248 件・リハビリテーション室との連絡
外出支援事業	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナのため手続きを中断 実施なし
サービス等計画 モニタリング作成	<ul style="list-style-type: none">・認定調査・サービス等利用計画・モニタリング作成業務 (相談支援専門員 3 人：相談支援センター兼務) *相談センター参照
療育活動	<ul style="list-style-type: none">・各病棟、リハビリテーション室と調整後、実施・音楽活動 320 回、ポップリ 40 回、ドライブ添乗 44 回、個別活動 45 回、 SLP での音楽活動 19 回、その他大型映像、大学活動、リハビリテーション 室主催の活動など

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都小平特別支援学校との連絡 ・東村山市市議会議員 市長選挙 不在者投票 4月19日 9人 利用者の意思確認・市への連絡・手続き・投票準備など ・市 都民税申告 利用者71人分 東村山市市民税係 提出 ・ボランティア受け入れ 園庭水やり（不定期）、イラスト
-----	---

2) 利用実績

新規入所、退所者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入所	0	0	1	3	0	1	1	2	0	1	0	1	10
退所	1	2	1	2	0	2	0	0	0	1	0	1	10

3) 在宅障害児（者）への支援

- ①短期入所の受入は、年間延べ利用者が79人、月平均6.6人、年間稼働率は43.6%であった。
- ②緊急受入れの実績は2件であった。他にも定期利用者の家族が怪我や病気のため、急遽利用延長をする事例があった。
- ③新規利用のための診察を再開し、6件の診察を実施。4件の体験入所が終了した。
- ④長期入所候補者であった方を短期入所で受け入れるための体験入所を1件行った。

⑤利用実績

短期入所・医療入院

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用病床数	25	43	34	47	36	45	37	41	39	60	38	34	479

4) 研修受け入れ・見学対応

- ①保育士養成校の学生（17校23人）に対し、病棟研修と講義を行った。
- ②見学実習については受け入れを中止している。
- ③目的に応じた見学の対応を実施。動画や写真で施設や活動等について紹介した。

5) 各種データの更新・資料作成

年1回	<ul style="list-style-type: none"> ・日本重症心身障害福祉協会 実態調査：該当部署依頼・入力・提出 ・新規採用職員研修（前期）抄録作成 ・全入所者 大島分類・横地分類・ADL評価・摂食状況 その他 データ更新
月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・見学者用資料 ・月予定表作成 ・ベッド配置図 ・入院診療計画書作成 ・現任研修会 視聴チェック表作成 アンケート集計

その他、依頼された項目での名簿作成等

— 以下余白 —

東京都立小平特別支援学校 秋津療育園施設内訪問学級（こぶし学級）

1 児童・生徒数（2024年3月）

学年	中 学 部				高 等 部			
	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計
男			2	1		2		2
女		1	1	2			1	1
合計		1	3	4				3

2 指導形態について

本年度は2つの病棟に生徒が在籍した。新型コロナウイルスによる病棟閉鎖中の対応として、年間を通してオンラインによる授業を実施した。

- ① 月曜日から金曜日のうち週3日を授業日とし、オンラインによる授業を行った。
- ② オンライン授業は1回あたり20分で実施した。
- ③ オンライン授業は集団で行った。
- ④ 対面授業は生徒1名に対し2時間授業を週2回実施した。

3 授業の流れ

時 程	授 業 名	授 業 内 容
リモート授業 10:30～10:50	自立活動	はじまりの会：挨拶・こぶし学級の歌・呼名・予定確認・今月の歌など
対面授業 午前 9:15～11:15	音楽 国語・数学	音楽：季節の歌・リズム打ち・日本の歌・外国の歌など 国語・数学：物語・数え歌など
午後 14:00～16:00	美術 生活単元学習	美術：季節の作品制作・文化祭作品作りなど 生活単元学習：紙すき、季節の活動など

4 主な指導内容

1) 授業について

中学部 自立活動を中心として、各教科学習を実施した。

高等部 自立活動を中心として、各教科学習を実施した。

2) 行事について

- ①こぶし学級行事：始業式、終業式、修了式、卒業を祝う会
- ②本校行事：文化祭（文化祭にはビデオ動画により参加した）。

5 秋津療育園との連携

こぶし学級の運営にあたっては、秋津療育園との日常的な連絡・連携を大切にしながら運営を行った。生徒の実態や課題については、病棟連絡会を通して園との共通理解を図り、利用者のより豊かな生活に向け指導を実施した。

1) 日常生活を通して

- ①オンライン授業では、病棟職員が参加した生徒の様子を画面に映すことや、授業の状況に合わせて教材を提示するなど相互協力することで円滑に進行した。
- ②対面授業は、連絡帳を通して生徒の様子を共有することができた。
- ③毎月1回「こぶし通信」を発行し、授業の様子を共有した。

2) 行事を通して

- ① 中学部卒業を祝う会はコロナ禍のためリモートでの実施となった。卒業生保護者は秋津療育園内からの参加となった。
- ② 高等部3年生の生徒は、本校の卒業式に参加した。卒業式に向けて、スクーリングを2回計画し、病棟職員と連携を図り実施した。
- ③ 小平本校の文化祭にビデオ動画で参加した。事前に衣装や小道具を届け、撮影は病棟職員と協力して実施した。

3) 定例会議

会 議 名	時期・回数	構成メンバー	内 容
教育連絡会	年度始め(6月) 年度末(2月)	園長・副園長・園関係職員 校長・副校長・訪問部主任・こぶし学級担任	訪問教育についての計画と報告 課題の協議・確認 情報交換・意見交換
病棟連絡会	年4回 (5月、8月、12月、3月)	病棟(看護科・支援科)関係職員 こぶし学級担任全員	こぶし学級の行事確認、授業や生徒に関する情報交換・意見交換など
支援会議	年1回 *卒業学年は年2回	病棟(看護科・支援科) リハビリテーション室関係職員 ケース担当とこぶし学級担任1名	生徒の様子 情報交換・意見交換
感染症 対策委員会	※報告を受ける	園長・療育部長・ 各病棟医師等関係職員	感染症への対策

— 以下余白 —

VI通園センター 相談支援センター 訪問看護

秋津療育園通園センター（生活介護事業）

1 事業概要

1) サービスの種類

日中活動	個別活動・全体活動・行事・外出活動
送 迎	委託バス3台 法人ワゴン1台（5コース）※看護師添乗 2コース（3便） 18人送迎
入 浴	希望者全員実施 週1回 月曜日～金曜日 午前中に実施
健康管理	日々の管理・月ごとの管理・予防接種など
その他	個別支援計画・相談・ご家族懇談会、個人面談など

2) 年間休日および開所時間

年間休日 土日祝および年末年始（12月29日から1月3日まで）

開園日数 244日（新型コロナ、インフルエンザなどによる休園あり）

開所時間 午前9時00分～午後4時00分

2 利用者の状況（2024年3月31日現在）

1) 登録数内訳

定員数20人 登録数20人 内訳（男性：5人、女性：15人）平均年齢：31.5歳

2) 居住地域

東村山市（8人）清瀬市（3人）西東京市（3人）東久留米市（3人）東大和市（2人）
小平市（1人）

3) 入退所の状況 新規利用 男性1人 2023年4月1日入所 東村山市在住

4) 利用者詳細

① 年齢内訳

年齢	19～29才	30～39才	40～49才	50才以上	合計（人）
利用者数	10	4	4	2	20

② 在籍年数

在籍年数	1～3年	4～9年	10～20年	10年以上	合計（人）
利用者数	4	8	5	3	20

③ 通所日数

通所日数	週5日	週4日	週3日	週2日以下	合計（人）
利用者数	10	1	5	4	20

④ 大島分類内訳

大島分類	1	2	3	4	合計（人）
利用者数	13	4	0	3	20

*利用者すべてが障害区分6である。

⑤主要病因

病名	人数	病名	人数
脳性まひ	8	髄膜炎後遺症	1
染色体異常症	1	点状軟骨形成症	1
4p-症候群	1	神経性皮膚黒色症	1
虚血性低酸素脳症	1	ヘルペス脳炎後遺症	1
低酸素脳症	1	レット症候群	1
副腎白質ジストロフィー	1	ドラベ症候群	1

5) 利用者の医療的ケア

①全体に占める医療的ケアを必要とする利用者 60%

②呼吸管理（人工呼吸器/24時間1人・必要時1人・夜間①1人、在宅酸素2人）

③吸入・吸引・経管栄養など、その他医療的ケアを必要とする方：12人

④超重症児者スコア

医療的スコア	25点以上	10点以上25点未満	10点未満	合計
人数	6	4	10	20

*利用者全体に占める超重症・準超重症者の割合：47.4%

6) 2023年度月別登園状況

	開園日数	月間定員数	月間登園予定数	月間登園数	臨時登園	稼働率(%)	欠席数	欠席理由				
								体調不良	家族都合その他	受診	短期入所	長期入院
4月	20	300	296	207	0	69.0	89	1	37	12	23	16
5月	19	285	280	221	0	77.5	59	4	30	6	13	3
6月	22	330	326	254	0	77.0	72	2	39	6	23	2
7月	20	300	297	205	0	68.3	92	1	50	5	34	2
8月	22	330	327	238	0	72.1	89	6	64	4	15	0
9月	20	300	296	218	0	72.7	78	6	40	11	21	0
10月	20	300	296	193	0	64.3	103	4	31	7	42	19
11月	20	400	285	180	0	45.0	105	12	61	8	21	3
12月	20	400	280	182	1	45.5	99	9	62	6	20	2
1月	19	380	271	153	0	40.3	118	17	71	4	26	0
2月	19	380	270	188	0	49.5	82	4	37	5	33	3
3月	22	440	312	229	0	52.0	83	13	36	3	30	1
計	243	4145	3536	2468	1	59.5	1069	79	558	77	301	51

*稼働率＝出席者数÷（定員数×開園日数）

*感染症対策・協力休みなどの欠席理由はその他に含む

— 以下余白 —

3年間スケジュール

2023 年度月別行事

月別	行事名	その他取組
4月	お花見・誕生会	入所式
5月	誕生会	多摩地域施設交流会（リモート）
6月	誕生会	
7月	七夕・誕生会	
8月	誕生会	
9月	誕生会	
10月	誕生会	
11月	誕生会	インフルエンザ予防接種
12月	クリスマス会・誕生会	インフルエンザ予防接種
1月	初詣・正月あそび・誕生会	
2月	豆まき・誕生会	
3月	ひな祭り・料理教室・誕生会	成人を祝う会

4活動状況

1) 外出活動

散歩や外気浴	気候が良い日に駐車場や2病棟中庭で外気浴を行った。また1病棟中庭のバラ園で季節感を味わいながら散策した。散歩は園周辺中心で実施した。
初詣	センター内2階に鳥居や賽銭箱、おみくじなどを用意しお参りをした。神妙な面持ちでお参りする様子が見られた。

2) 地域参加活動

本年5月からオンラインを使ったリモートで多摩地域の施設と交流会を行った。

3) 日中活動

個別対応を中心とした活動を提供し、全体活動では利用者間の距離を取り、感染対策しながら、季節行事を取り入れて提供した。

運動	① 個別支援計画に基づいた機能訓練にて歩行や座位保持を実施した。 ② 呼吸管理が必要な利用者は肺リハや姿勢変換によって排痰を促した。 ③ 体の硬くなる冬季にはマッサージやストレッチを中心に行った。
音楽	① 季節感を意識した歌を聞いたり演奏したりした。(ハンドベル、鈴などの楽器) ② 手あそび歌でマッサージやストレッチをした。
制作	① 季節イベントに合わせた壁飾などを制作した。 ② クリスマス会など行事の準備制作を行った。
心安	① 暗室にし、光や映像、音楽などで雰囲気を作りリラクゼーションを図った。 ② アロマオイルを焚き心身のリラックスを促した。 ③ 氷などを使用したクーリングを行った。(夏季) ④ 手足浴、ホットパックにて血流の循環を促した。(主に冬季)
遊楽	① ゲーム ② トランポリン ③ バランスボール
生活	① 学び(七夕やひな祭りなどイベントに関する内容) ② 本や絵本読み ③ 映画鑑賞④散歩、外気浴など戸外活動

4) 2023 年度 活動実績

取組別活動実績

(単位：回数)

		運動	制作	遊楽	心安	音楽	生活	外気浴	ボランティア公演	プール	外出活動	個別活動	月合計
4月	1階	1	7	10	7	1	18	9				9	62
	2階	3	7	8	5	2	13	12				6	56
	合計	4	14	18	12	3	31	21	0	0	0	15	118
5月	1階	0	14	2	3	4	16	8				10	57
	2階	1	8	3	6	5	15	9				5	52
	合計	1	22	5	9	9	31	17	0	0	0	15	109
6月	1階	2	8	3	4	1	17					19	54
	2階	4	6	4	9	4	12					14	53
	合計	6	14	7	13	5	29	0	0	0	0	33	107
7月	1階	1	2	6	6	3	17					18	53
	2階												0
	合計	1	2	6	6	3	17	0	0	0	0	18	53
8月	1階	6	0	5	4	2	12					5	34
	2階												0
	合計	6	0	5	4	2	12	0	0	0	0	5	34
9月	1階	5	5	5	4	2	13	2				5	41
	2階												0
	合計	5	5	5	4	2	13	2	0	0	0	5	41
10月	1階	3	5	1	3	2	19	7				7	47
	2階												0
	合計	3	5	1	3	2	19	7	0	0	0	7	47
11月	1階	6	6	3	1	7	16	4				20	63
	2階												0
	合計	6	6	3	1	7	16	4	0	0	0	20	63
12月	1階	5	9	0	3	10	12					6	0
	2階												0
	合計	5	9	0	3	10	12	0	0	0	0	6	45
1月	1階	7	12	7	1	1	14					16	0
	2階												0
	合計	7	12	7	1	1	14	0	0	0	0	16	58
2月	1階	6	11		5	5	11					8	0
	2階												0
	合計	6	11	0	5	5	11	0	0	0	0	8	46
3月	1階	7	4	4	4	5	8	3				15	0
	2階												0
	合計	7	4	4	4	5	8	3	0	0	0	15	50
1階年合計		24	47	35	32	22	128	30	0	0	0	93	411
2階年合計		8	21	15	20	11	40	21	0	0	0	25	161
年合計		57	104	61	65	54	213	54	0	0	0	163	771

5 見学

見学 2回 (延べ8人)

6 職員の構成

管理者	1人 常勤・兼務	サービス管理責任者	1人 常勤
医師	1人 常勤・兼務	看護師	5人 常勤
支援員	6人 常勤	作業療法士・言語聴覚士	4人 兼務

7 研修・その他

【連絡会等】

- ・都内重症心身障害児(者)通所施設連絡会
- ・第26回 全国重症心身障害日中活動支援協議会 (リモート)
- ・第27回 全国重症心身障害日中活動支援協議会 開催打合せ会議 (リモート)
- ・多摩地域施設交流会実行会議 (リモート)

【研修】

- ・摂食・嚥下指導(基礎・実習)講習会 リモート1人
- ・介護職員等に痰の吸引等の実施のための研修(特定の者対象) 1人

— 以下余白 —

秋津療育園相談支援センター(相談支援事業)

1 事業概要

指定計画相談支援、指定障害児相談支援

2 職員配置状況

管理者	常勤兼務 1 人
相談支援専門員	常勤専従 4 人 常勤兼務 5 人

※相談支援専門員（社会福祉士・精神保健福祉士・その他）

3 契約状況

本年度末の契約者の内訳は、通園利用者を含めた地域の成人契約者が 321 人、児童契約者が 167 人、秋津療育園の入院されている利用者が 168 人となっている。本年 4 月 1 日より秋津療育園相談支援センターとアークこども相談センターが再統合し、秋津療育園相談支援センターに一本化された。同年 7 月からは 24 時間対応のオンコール相談を開始した。

4 サービス等利用計画およびモニタリング報告書提出実績

秋津療育園相談支援センターが 2023 年度に提出した障害福祉サービス等利用計画(成人)は 245 件、モニタリング報告書(成人)は 656 件。障害児支援利用計画(児童)は 266 件、モニタリング報告書(児童)は 363 件。障害福祉サービス等利用計画(園生)は 16 件、モニタリング報告書(園生)は 97 件であった。2024 年 3 月 31 日現在の契約者数は、地域成人 321 人(秋津療育園通園センター利用者を含む)、地域児童 167 人、秋津療育園入所者 168 人であった。

5 2023 年度月別請求等件数

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
新規	成人	1	1	0	1	0	0	1	0	2	1	0	0	7
	児童	1	3	3	0	0	0	2	0	1	0	0	2	12
計画	成人	18	17	19	12	20	21	17	31	6	13	14	27	215
	児童	14	31	17	10	14	11	14	24	21	10	17	27	210
モニタリング	成人	38	51	47	43	55	43	36	50	56	37	38	31	525
	児童	17	20	23	21	14	24	20	30	24	21	20	31	265
その他	成人	22	22	28	14	13	16	13	13	19	13	19	22	214
	児童	7	13	7	14	8	8	10	15	6	11	7	1	107
合計	成人	79	91	94	70	88	80	67	94	83	64	71	80	961
	児童	39	67	50	45	36	43	46	69	52	42	44	61	594

6 地域の活動状況

東村山市自立支援協議会の専門部会の一つである相談支援部会の一員として定例部会に参加した。定例部会は集会形式にて毎月行われる。定例部会の内容は東村山市からの情報提供および事務連絡、参加事業所からの報告および情報交換、事例検討、他分野(児童、高齢)との交流会などであった。

7 研修

- ① 「東京都相談支援従事者現任研修」 6月27日、8月3日、8月4日
- ② 「就労支援研修」 7月26日
- ③ 「介護保険へのスムーズな移行に向けて」 11月16日
- ④ 「医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修」 11月30日、3月16日
- ⑤ 「小児在宅移行研修 令和5年度多職種合同研修会」 2月3日、2月4日

訪問看護ステーションあきつ（訪問看護事業）

1 実績

訪問看護ステーションあきつの実績は、医療保険、介護保険、生活保護、自立支援の療養者含め合計38件であった。

2 地域活動

訪問看護ステーション所在地の地域活動を「暮らしの保健室」と名付けて、医療や介護などでお困りの方々を対象に何でも相談を、東村山市青葉町2丁目の個人宅の1F（ままカフェ）、当事業所を相談所として無料で実施した。相談された内容により、地域包括センター、市役所、ケアマネ、病院受診などに繋げた。

3 まとめ

2021年7月1日に訪問看護ステーションとして認可を受け9月より事業開始したが、コロナ禍の影響から利用者への訪問が制限されたこともあり、利用者数が伸びず。今後の増加も見通せないため、2024年3月をもって事業を休止とした。

— 以下余白 —

VII 児童発達支援センターマイム エメット保育園

児童発達支援センターマイム（東京都指定障害児通所支援事業）

1 事業概要

1) サービス種別

児童発達支援（福祉型児童発達支援センター）居宅訪問型児童発達支援、保育所等訪問支援

2) 主たる対象者：重症心身障害（8人）、重症心身障害以外（20人）

① 重症心身障害児、知的障害児、発達障害児、肢体不自由児など

② 定員〔重症心身障害（8人）、重症心身障害以外（20人）〕

③ 通常の事業の実施地域は、東村山市とその隣接地域。ただし障害児が自ら事業所へ通うことが可能であれば利用は可能とする。事業所の送迎車を利用する場合には、居宅までの距離が直線で概ね4km圏内。

2 利用児内訳

1) 年齢

（単位：人）

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳以上	計
ひかり（重心一日）	0	3	1	2	4	2	0	0	12
にじ（重心外一日）	0	0	1	5	2	3	0	0	11
そら（重心外短時間）	0	0	1	6	5	13	10	0	35
かぜ（保育所等訪問・ 居宅訪問型）	0	0	1	4	9	8	4	4	30
計	0	3	4	17	20	26	14	4	88

2) 延べ利用者数

（単位：人）

月	ひかり	にじ	そら	かぜ	合計
4月	74	114	97	3	288
5月	69	115	92	6	282
6月	88	147	112	9	356
7月	89	126	92	11	318
8月	85	115	106	4	310
9月	92	131	96	16	335
10月	104	126	96	16	342
11月	95	112	114	27	348
12月	99	125	107	29	360
1月	87	117	105	18	327
2月	86	108	100	29	323
3月	92	131	124	26	373
合計	1060	1467	1241	194	3962

3 職員配置状況（2024年3月末時点）

職種	常勤 (人)	非常勤 (人)	合計員数	資格等
管理者	1		1	理学療法士
児童発達支援管理責任者	3		3	児童指導員 1 人、看護師 1 人、 作業療法士 1 人
保育士	3	2	5	音楽療法士 1 人
看護師	2		2	
児童指導員	2	1	3	
機能訓練担当職員	4		4	理学療法士 2 人、作業療法士 2 人
栄養士	1		1	
調理師	1		1	
運転士	1	1	2	
嘱託医		1	1	
計	18	5	23	

※その他 歯科検診年 2 回「オリーブ小児歯科」契約

4 保護者支援

1) クラス保護者会実施状況

- ① にじクラス 年 2 回
- ② ひかりクラス 年 1 回
- ③ そらクラス 年 1 回

2) 保護者研修会（オンライン、対面、動画配信による）

- ① 「特別支援学校（肢体不自由部門）小学部の就学について」
～医療的ケアを必要とするお子さまの就学について～
都立肢体不自由特別支援学校就学中の保護者 1 人講師
- ② 「小学校（通級や特別支援学級）や特別支援学校（知的障害）小学部等の就学に向けて」
東村山市障がい児保護者連絡会 保護者 1 人講師

5 合同活動

「SLPセンターアーク」建物内の「エメット保育園」と一緒に行う保育活動。

週単位の「くるくるタイム」、月単位の「誕生会」、年間行事の「夏祭り、ハロウィン、クリスマス会、節分、卒園式」を新型コロナの対策をとりながら、できる範囲で工夫して行った。

6 施設評価

1) 第三者評価

NPO法人日本ライフサポートによる保護者および職員アンケートと現場調査を実施した。

2) 児童発達支援の自己評価

保護者および職員アンケートを実施した。

7 関係機関との連携

1) 東村山市

- ①児童発達支援事業所に関する連絡会（10月、2月）開催
インクルーシブ支援について講義
- ②東村山市自立支援協議会定例会（8月、12月、3月）
- ③東村山市障害者自立支援協議会 相談支援部会 講演（9月）
- ④東村山市健康福祉部障害支援課 随時相談、市議会資料提出年2回
- ⑤東村山市第6次地域福祉計画策定委員会（毎月）

2) 利用児の地域連携

- ①利用児関係者会議
- ②併行保育先の保育園・幼稚園職員見学、当センター職員の訪問
- ③東村山市教育委員会特別支援係 就学前施設訪問
- ④卒園前事業所訪問 1件（小平特別支援学校）報告書等の提出
- ⑤立川ろう学校乳幼児相談 利用児の情報共有と施設指導
- ⑥訪問看護ステーション、リハビリスタッフ、保健師などの見学および情報交換

8 職員研修

1) 講師研修

講師	研修内容
NPO法人地域ケアさぼーと研究所 作業療法士 白鳥芳子氏	摂食支援研修 年間12回
高知大学教育学部門特別支援教育コース 助教 佐藤貴宣氏	発達障害児アセスメント研修 年間5回
白梅学園大学 子ども学部 准教授 廣澤 満之 氏	発達障害児支援研修会 年間5回
就学相談研修	令和5年度「先輩ママに聞いちゃおう」研修会Ⅰ 令和5年度「先輩ママに聞いちゃおう」研修会Ⅱ

2) オンデマンド研修会

実施月	研修内容
5月	呼吸と運動発達～子どもの身体のきほん～
6月	在宅リハビリテーションの実践 呼吸と運動発達
7月	赤ちゃんや子どもたちが自発的に動いたときの認知機能の発達
8月	医療的ケアのあるスペシャルneedsのある子どもの発達支援
9月	地域共生社会における重症心身障害者施設の役割
10月	医療的ケア児 田中先生の仲間と子どもたち訪問診療の楽しさと涙
11月	小さく産まれた赤ちゃんのお話
12月	傷ついた親子に、幸せを～小児神経科医・友田明美

エメット保育園（小規模保育事業 A型）

1 定員

1) 地域枠 0歳児 6人 1歳児 6人 2歳児 7人

2) 在園児数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	3	3	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6
1歳	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
2歳	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

*天童会 秋津療育園職員の子ども1人 : 小平市からの委託園児として受入れ

2 保育

1) クラス別目標

①ちゅーりっぷ組（0～1歳児）

- ・ひとりひとりの発達にあった生活リズムの中で、安心感を持って心地よく過ごす。

②ひまわり組（1～2歳児）

- ・人とかかわりを通して、信頼感を抱いていくことで、安心して園での時間を過ごす。
- ・友達との遊びに興味関心を持ち、同じものを使った遊びを楽しむことで、友達とのやり取りに喜びを感じる。

③さくら組（2～3歳児）

- ・保育者に援助してもらいながらも、着替えなど身の回りのことを自分でできるようになっていき、自ら行おうという意欲を持つ。
- ・それぞれの子どもが安心して園生活を行う中で、十分に自己発揮・自己表現ができるようにする。
- ・友達とかかわり合いながら、共に遊ぶ楽しさを経験する。

3年間行事

4月	慣らし保育（4日間）	10月	運動会（保護者参加）、ハロウィン（合同）
5月	子どもの日、全体保護者会 定期健診	11月	定期健診、戸外活動「さつまいも掘り」
6月	尿検査、歯科検診	12月	クリスマス会（感染症予防のため保育園のみで実施）、歯科検診
7月	戸外活動「ジャガイモ掘り」プールあそび	1月	正月あそび
8月	プールあそび	2月	節分（感染症予防のため保育園のみで実施） 個別面談
9月	夏祭り（合同）	3月	ひな祭り、卒園式（卒園児保護者のみ参加）

上記以外に毎月誕生会（合同）・絵本読み聞かせ・食育・避難訓練・身体測定を実施

毎月一回「エメットだより」を発行

週1回くるくるタイムの実施（感染症による中止・不参加もあり、状況により判断・決定）

— 以下余白 —

VIII会議 各種委員会 施設内研修

定例会議一覧

1) 施設基準により設置されている会議

会議名	会議内容
入院診療計画書 個別支援計画書検討委員会	実施回数：月 1 回 出席者： 各病棟主治医、看護科・支援科責任者、リハビリテーション室、 看護科・支援科の利用者担当職員、療育サービス課 内容： 提出された入院診療計画書と個別支援計画書の内容について検討を行う。
医療安全管理委員会	実施回数：月 1 回 出席者： 園長、副園長、療育部長、療育部次長、各病棟看護科長、事務局総務課長、 栄養管理室課長、リハビリテーション室総括主任、通園センター所長、 相談支援センター長、療育サービス課長 内容： 医務部より薬剤師主任・検査科主任が出席し、ひやりはっと委員会報告、 感染症対策委員会などを通して、安全管理全般について検討する。
ひやりはっと委員会	実施回数：月 1 回 出席者： 園長、副園長、療育部長、療育部次長、各病棟看護科長、事務局総務課長、 栄養管理室課長、リハビリテーション室総括主任、通園センター所長、 相談支援センター長、療育サービス課長 内容： 各部署・病棟より報告されるインシデント・アクシデント事例を委員会 で共有後、委員会で事故分析を行い、再発防止の対応をする。必要 に応じて医療安全管理委員会へ報告を行う。
感染症対策委員会	実施回数：月 1 回 出席者： 園長、副園長、医師、管理部長、療育部長、療育部次長、各棟責任者、 通園センター所長、相談支援センター長、療育サービス課長、薬剤師、 臨床検査技師、歯科衛生士、栄養管理室課長、リハビリテーション室 内容： 検査科より施設内の検査結果報告、及び感染症の予防と対策について 検討し、法人の感染対策に係る方向性について委員会で決定する。
褥瘡予防対策委員会	実施回数：月 1 回 出席者：看護科、支援科、栄養管理室の担当委員 内容：利用者の褥瘡発生防止と対策について検討する。
身体拘束委員会	実施回数：年 4 回（4 月、7 月、10 月、1 月） 出席者：園長、療育部長、療育部課長、医事課 内容：身体拘束の状況について確認を行う。

2) 入院時食事療養等の基準により設置されている会議

会議名	活動内容
給食委員会	実施回数：月 1 回 出席者 園長、担当医師、栄養管理室、療育部看護科、支援科、医事課 リハビリテーション室 内容：利用者の食事形態、メニューについて検討する。

栄養ケアプラン会議	実施回数：月1回 出席者： 園長、担当医師、栄養管理室、療育部看護科、支援科、医事課 リハビリテーション室 内容： 全利用者対象に作成された栄養管理計画に基づき、関係職種が共同して利用者の栄養管理について検討し、栄養ケアプランを作成する。
-----------	--

3) 労働安全衛生法により設置されている会議

会議名	活動内容
安全衛生委員会	実施回数：月1回 出席者：園長、療育部各病棟代表者、検査科、業務課 事務局（衛生管理者） 内容：施設内の労働環境の改善を図る。

4) その他法律により設置されている会議

会議名	活動内容
薬事委員会 該当法：医療法	実施回数：年4回 出席者：園長、副園長、医務部長、医師、療育部長、薬剤師 内容：園内の薬品について購入、変更等を検討する。
医療ガス安全管理委員会 が該当法：医療法	実施回数：年1回 出席者：事務局、汽罐担当者、副園長、療育部 内容：医療ガスの状況について確認、検討を行う。
個人情報保護管理委員会 該当法：個人情報保護法	実施回数：年1回 出席者：事務局、医務部、療育部、栄養管理室 内容：各部署の個人情報保護の状況について確認、対応を検討する。
虐待防止検討委員会 該当法：障害者虐待防止法	実施回数：年4回 出席者：園長、副園長、療育部長、事務局、療育サービス課 内容：施設内の虐待の状況報告、虐待防止対策について検討する。

5) その他の会議

会議名	活動内容
四役会議	実施回数：月2回 出席者：理事長、常務理事、園長、副園長、事務局 内容：主として法人の経営、運営に関する事項について決定する。
連絡調整会議	実施回数：月1回（第1月曜日） 出席者：理事長、園長、及び各部・各課の管理職（課長職以上） 内容：各部署の状況報告し情報交換を行う。
医務部会	実施回数：月1回 出席者：医務部職員 内容：医療に関する情報交換を行う。
療育部会	実施回数：月1回 出席者：療育部部長、次長、各病棟科長 内容： 活動方針、入院診療計画・個別支援計画・発達支援計画に沿った療育の実施について検討する。

教育担当委員会	<p>実施回数：月 1 回</p> <p>出席者： 療育部次長、看護科長、支援科長、事務局、リハビリテーション室、 栄養管理室長、療育サービス課</p> <p>内容： 職員育成に関する研修教育の計画と実施、会報の編集を検討する。</p>
倫理委員会	<p>実施回数：必要に応じて</p> <p>出席者： 園長、副園長、療育部長、事務局、他園長の指名する職員</p> <p>内容： 施設内の倫理的な問題を調査検討する。</p>
死亡事例検討委員会	<p>実施回数：月 1 回</p> <p>出席者： 療育部次長、看護科長、支援科長、事務局、リハビリテーション室、 栄養管理室長、療育サービス課</p> <p>内容： 園生死亡の際の報告・その事例について検討し、情報共有化を図る。</p>
短期・医療入院 ベッド調整会議	<p>実施回数：月 1 回</p> <p>出席者：療育部長、療育部次長、各病棟科長、療育サービス課</p> <p>内容： 短期入所の受入のため施設内で調整を行う。</p>
広報委員会	<p>実施回数：月 1 回</p> <p>出席者： 事務局、療育部次長、各病棟担当、通園センター、療育サービス課</p> <p>内容： あきつ新聞に関する紙面内容、SNS/インスタグラムなど園の広報に関する検討を行う。</p>

研修報告

1 2023 年度 現任研修会・報告会等の状況

2023 年度の現任職員研修については、ビデオ視聴による研修を主とし、新たに e ラーニングを取り入れ、期限を決めて視聴後記名によるアンケート提出と、研修出欠簿は責任職によりパソコン上でチェックする形式をとった。

月	項目	講師	講義内容
6 月	必須講義 ビデオ研修	WEB	療育上の事故防止 I 基礎から学ぶ医療安全
7 月	必須講義 ビデオ研修	副園長	感染予防 I
8 月	必須講義 ビデオ研修	WEB	虐待防止・行動抑制 障害者虐待における病院の役割
9 月	必須講義 ビデオ研修	WEB	感染予防 II 学び直しの標準呼ぶ策 感染予防～手指消毒、標準予防策
10 月	必須講義 ビデオ研修	WEB	個人情報について 守秘義務・個人情報保護の基本知識
11 月	必須講義 ビデオ研修	看護科次長	療育上の事故防止 II 当園におけるヒヤリハット事例と状況
12 月	必須講義 ビデオ研修	WEB	ハラスメント講義 事例から学ぶ医療現場におけるハラスメント対策

2 新規採用職員研修に関する状況

1) 前期研修 (2023 年度採用職員研修)

月 日	講師	講義内容
2023 年 4 月 3 日	理事長訓示・辞令交付 理事長 厚生会会長 栄養管理室長 園 長 療育部長 事務部 療育部支援課次長 (研修担当)	天童会について 福利厚生会について 職員食事・食事伝票書き方 重症児者と感染症 職員の心構えとマナー 就業規則・服務心得、事務手続き 職員コミュニケーション、研修まとめ
4 月 4 日	事務部 事務部 栄養管理室長 支援科次長 看護科次長 リハビリテーション室	防災と消防について 個人情報保護について 栄養管理室の役割について 支援科の役割について 看護科の役割について リハビリの役割について、研修まとめ
4 月 7 日	リハビリテーション室	トランスファー研修

2) 後期研修

月 日	講 師	講 義 内 容
月 15 日	療育部次長 看護科次長	支援科の活動と記録について 看護記録について・PPE 着脱

3 研究報告

1) 学会報告

第 34 回重症心身障害療育学会学術集会演題
発表者 第 4 病棟 演題 「事前の環境設定を行う事で運動機能を向上させるための取り組み」

2) 施設内演題

発表者	演題
第 1 病棟支援科	「お手伝い活動を通して～自分らしく生きる為に～」
第 2 病棟看護科	「活動による生活への影響」
第 3 病棟支援科	「午後の活動の充実化を図る取り組みについて」
第 4 病棟看護科	「がん性疼痛の緩和に向けた取り組み」

IX2023 年度決算報告

資金収支計算書

(自) 令和 5年 4月 1日 (至) 令和 6年 3月31日

(単位：円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	
事業活動による収支	収	介護保険事業収入	3,770,000	3,621,406	148,594
		障害福祉サービス等事業収入	1,055,047,000	1,076,676,957	-21,629,957
		児童福祉事業収入	9,800,000	10,635,588	-835,588
		医療事業収入	1,352,832,000	1,366,461,899	-13,629,899
		保育事業収入	43,694,000	55,965,444	-12,271,444
		経常経費寄附金収入	4,777,000	6,624,402	-1,847,402
		受取利息配当金収入	23,946,000	20,623,792	3,322,208
		その他の収入	7,555,000	6,924,670	630,330
		事業活動収入計(1)	2,501,421,000	2,547,534,158	-46,113,158
	支	人件費支出	1,955,436,000	1,963,919,222	-8,483,222
	事業費支出	359,031,000	353,460,030	5,570,970	
	事務費支出	180,585,000	174,028,471	6,556,529	
	事業活動支出計(2)	2,495,052,000	2,491,407,723	3,644,277	
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	6,369,000	56,126,435	-49,757,435	
施設整備等による収支	収	施設整備等補助金収入	5,000,000	5,000,000	
		固定資産売却収入	3,740,000	3,740,000	
		施設整備等収入計(4)	8,740,000	8,740,000	
	支	固定資産取得支出	15,658,000	27,485,581	-11,827,581
		その他の施設整備等による支出	164,000		164,000
	施設整備等支出計(5)	15,822,000	27,485,581	-11,663,581	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-7,082,000	-18,745,581	11,663,581	
その他の活動による収支	収	投資有価証券売却収入		1,216,244	-1,216,244
		積立資産取崩収入	7,230,000	10,563,300	-3,333,300
		その他の活動による収入	4,293,000	4,649,105	-356,105
		その他の活動収入計(7)	11,523,000	16,428,649	-4,905,649
	支	積立資産支出	7,230,000		7,230,000
	その他の活動支出計(8)	7,230,000		7,230,000	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	4,293,000	16,428,649	-12,135,649	
	予備費支出(10)		—		
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	3,580,000	53,809,503	-50,229,503	
	前期末支払資金残高(12)	1,093,295,266	1,093,295,266		
	当期末支払資金残高(11)+(12)	1,096,875,266	1,147,104,769	-50,229,503	

事業活動計算書

(自) 令和 5年 4月 1日 (至) 令和 6年 3月31日

(単位：円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	3,621,406	2,821,748	799,658
		障害福祉サービス等事業収益	1,076,676,957	961,201,673	115,475,284
		児童福祉事業収益	10,635,588	82,640,536	-72,004,948
		医療事業収益	1,366,461,899	1,432,271,784	-65,809,885
		保育事業収益	55,965,444	39,388,960	16,576,484
		経常経費寄附金収益	6,624,402	14,221,930	-7,597,528
	その他の収益	6,543,670	121,960	6,421,710	
	サービス活動収益計(1)		2,526,529,366	2,532,668,591	-6,139,225
	費用	人件費	1,956,517,422	2,116,083,736	-159,566,314
		事業費	353,460,030	383,443,395	-29,983,365
事務費		174,028,471	168,886,829	5,141,642	
減価償却費		164,827,306	163,166,191	1,661,115	
国庫補助金等特別積立金取崩額		-61,189,303	-61,189,303		
サービス活動費用計(2)		2,587,643,926	2,770,390,848	-182,746,922	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		-61,114,560	-237,722,257	176,607,697	
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	23,891,103	17,466,629	6,424,474
		その他のサービス活動外収益	5,030,105	7,051,450	-2,021,345
	サービス活動外収益計(4)		28,921,208	24,518,079	4,403,129
	費用	サービス活動外費用計(5)			
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		28,921,208	24,518,079	4,403,129	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		-32,193,352	-213,204,178	181,010,826	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	5,000,000		5,000,000
		固定資産売却益	2,899,999	929,999	1,970,000
	特別収益計(8)		7,899,999	929,999	6,970,000
	費用	固定資産売却損・処分損	1	1,331,000	-1,330,999
特別費用計(9)		1	1,331,000	-1,330,999	
特別増減差額(10)=(8)-(9)		7,899,998	-401,001	8,300,999	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		-24,293,354	-213,605,179	189,311,825	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		540,944,872	754,550,051	-213,605,179
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		516,651,518	540,944,872	-24,293,354
	基本金取崩額(14)				
	その他の積立金取崩額(15)				
	その他の積立金額(16)				
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)		516,651,518	540,944,872	-24,293,354

貸借対照表

令和 6年 3月31日現在

(単位：円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
流動資産	1,239,175,543	1,175,428,779	63,746,764	流動負債	279,904,570	266,805,809	13,098,761
現金預金	825,748,553	790,914,063	34,834,490	事業未払金	82,053,417	73,329,539	8,723,878
有価証券	1,216,244	1,216,244		未払費用	1,912,751		1,912,751
事業未収金	385,779,502	381,621,123	4,158,379	預り金	25,612		25,612
未収補助金	24,198,198		24,198,198	職員預り金	8,078,994	8,803,974	-724,980
立替金		125,650	-125,650	賞与引当金	187,833,796	184,672,296	3,161,500
前払費用	2,233,046	1,551,699	681,347	固定負債	63,225,700	73,789,000	-10,563,300
固定資産	8,456,043,222	8,602,737,182	-146,693,960	退職給付引当金	63,225,700	73,789,000	-10,563,300
基本財産	3,795,710,326	3,908,860,488	-113,150,162	負債の部合計	343,130,270	340,594,809	2,535,461
土地	2,210,809,008	2,210,809,008		純 資 産 の 部			
建物	1,584,901,318	1,698,051,480	-113,150,162	基本金	4,384,857,288	4,384,857,288	
その他の固定資産	4,660,332,896	4,693,876,694	-33,543,798	基本金	4,384,857,288	4,384,857,288	
土地	525,652,820	525,652,820		国庫補助金等特別積立金	645,475,955	706,665,258	-61,189,303
建物	117,064,770	124,324,530	-7,259,760	国庫補助金等特別積立金	645,475,955	706,665,258	-61,189,303
構築物	27,817,799	31,232,290	-3,414,491	その他の積立金	3,805,103,734	3,805,103,734	
車輛運搬具	2,353,997	6,692,500	-4,338,503	施設整備積立金	3,739,636,950	3,739,636,950	
器具及び備品	101,733,033	112,520,906	-10,787,873	修繕積立金	65,466,784	65,466,784	
権利	1,175,000	1,175,000		次期繰越活動増減差額	516,651,518	540,944,872	-24,293,354
ソフトウェア	9,527,240	8,068,178	1,459,062	次期繰越活動増減差額 (うち当期活動増減差額)	516,651,518 -24,293,354	540,944,872 -213,605,179	-24,293,354 189,311,825
投資有価証券	6,528,803	4,477,736	2,051,067	純資産の部合計	9,352,088,495	9,437,571,152	-85,482,657
退職給付引当資産	63,225,700	73,789,000	-10,563,300	負債及び純資産の部合計	9,695,218,765	9,778,165,961	-82,947,196
施設整備積立資産	3,739,636,950	3,739,636,950					
修繕積立資産	65,466,784	65,466,784					
差入保証金	150,000		150,000				
その他の固定資産		840,000	-840,000				
資産の部合計	9,695,218,765	9,778,165,961	-82,947,196				

社会福祉法人天童会 会報

2023（令和5）年度

発行日 2024（令和6）年7月22日
発行者 社会福祉法人天童会
理事長 大石 勉
編集 教育担当委員会
住所 〒189-0002
東京都東村山市青葉町3-31-1
電話 042-391-1377(代)
FAX 042-392-5422
URL <https://www.tendoukai.net>